535

特207

特207-909
1200700909039

日本精神とカトリック教

山口鹿三著

ドンボスコ社發行

カトリック講話集
第九期
第十一・十二輯

始

特207
909

山口鹿三著

日本精神
と
教クッリトカ

ドンボスコ社發行

目次

序文……一
平田篤胤の日本精神に對するカトリック教の影響……一三
カトリック教と日本精神……二五
カトリック教の孝道及び忠君愛國……三八
カトリック教徒の忠君愛國の實例……五五
教會至上主義……五九
日本精神總動員に就て……八四

日本精神とカトリック教

序文

耶蘇教の神は外國の神で、日本の神でないと云ふ者がある。是は大なる謬見である。耶蘇教の神は天地萬物の創造主であり、主宰神であるから外國の神であると同時に我日本の神である。萬國萬民萬代の神である。我日本國の先祖等は世界萬國の民族と同じく此神を認めて之を禮拜した。我國の神典『古事記』の冒頭には造化三神と呼ばるゝ天之御中主神、高御産靈神、神産靈神の三柱の神の事が記されてゐる。此造化三神を創造神でないと主張する者もあるが、其論據は極めて薄弱で取るに足らない。本居宣長、平田篤胤の如き權威ある大家は皆之を創造神と解釋してゐる。古事記の序文の始には「三神造化の首と作り」とあり、『日本書紀』の顯宗天皇紀三年二月の處には日月兩神が人に著りて『我祖高御産靈神は預く天地を鎔造し功あり、宜しく民地を以て奉るべし、云々』と御託があつた、と錄されてゐる。平田篤胤翁は之を解して「鎔造は本無かりし天地を造り出し給

へることである」と『古史傳』に解釋してゐる。本居宣長翁は『玉鉾百首』に「もろ〳〵の成り出づるもとに、神産巣日、高御産巣日の神のむすびぞ」と詠じて居る。「産巣日」は日本書紀には「産靈」とある。ムスは「若蒸す」「息子」「息女」のムスと同じく生成する意味、ビは日、火などと同源で靈妙の意。即ち靈妙不思議なる創造作用を指す。本居翁は『直毘の靈』に「さて世間に有りとあることは、此の天地を始めて萬ッの物も事業も悉に皆此の二柱の産靈の大御神の産靈に資て成り出るものなり、あらゆる神たちをみな此神の御兒なりと云むも遠はず、神も人もみな此神の産靈より成出づればなり」と書いてある。

我國の造化三神が創造神であることは歴史上否認されぬ事實であるから、創造神の信仰を以て原始人類の思想の遺物と爲して、之を排斥する佛教徒も之を認めて居る。例へば本願寺の大立物である前拓務大臣故大谷尊由師は其著『親鸞聖人の正しい見方』の中に「宇宙創造の神、宇宙支配の神若くは宇宙の本體の神、斯うした神を想定した所謂有神論の考へ方は、勿論基督教の專用でなく、回々教でも、猶太教でも、また印度の宗教でも、或は日本の神道でも此の種の考へ方を根抵として神を取扱つて居るものが多數あります……然るに斷乎として此種の有神論を排斥し、無神論の立場に宗教を建設せられたるは、實に釋迦牟尼その人であります。釋迦は宇宙創造の神も宇宙支配の神も、また宇宙本體の神も、すべてさうした神の存在を否定し去りて、我々衆生の人格を基礎としたる教義を高唱せられたのであります。恐らく釋迦の說法が、無神宗教の最初であらうと思はれます」と書いてゐます。

尙ほ東西古今の學者の造化三神に關する意見を少しばかり次に揭げて讀者の御參考に供する。

墺多利の法學大博士スタイン曰く「日本の天御中主尊と西洋の「ゴット」とは同物異名にして造化天神たることを信ず、東西其名稱異なれども其實同じきこと、例へば仰ぎ見る所の太陽は各國其名を異にすれども其實同じきと一般なり」

新嶋襄曰く「天御中主尊は萬物造化の神なりと云はば卽ち天帝なり」

日本紀の神代卷を佛譯したる佛國の學者レオン・ドロニー曰く「日本の神道は唯一神教なり、何となれば數多の神ありと雖も天御中主神を主とするを以て結局唯一神教なり」

勝安芳曰く「近頃天御中主尊と西洋の「ゴット」と同一であるとか、同一で無いとか云ふ論があるが、天御中主尊と高産靈、神産靈とは造化の神となり、造化の神は國毎に別々にあるものにあら

ず」

『古事記新解』の著者小澤打魚曰く「天之御中主神は萬物造化の主宰である……造化の三神、實は一神の體と用とを示したに過ぎぬ。それゆゑに、古事記の後段に至つても、作用を示したる高御産巣日、神産巣日などの名は再び用ゐらるゝことがあるが天之御中主といふ名は、たゞ一回、卷頭に用ゐられただけで、再び用ゐらるゝことのないのは、是がためである」

『敬神崇祖、神道精義』の著者宮地猛男曰く「天地開闢の太初天之御中主神といふ天地の中軸に立たせられる大神がおはした。その大神こそは宇宙の根元であつて天地間にありとあらゆる事も物も、その大神の思召に依つて造られたものである。この大神の御事を基督教では上帝と稱す。……主宰神、造物主たる天御中主神は天地開闢の以前より天地の破壞して後までも永劫に亙つて實在せられ、生と進化の理に依つてこの宇宙の開發をお計りになつて居る」

平田篤胤曰く「御中主神は太陽で、他の諸神は太陽より分けられたる火である。火はその本質を太陽と同じくすれど、如何に集りたりとて到底太陽となる事は出來ない。之と同じく諸神は如何に努力するも御中主神とはなれない」

古道卽ち純粹なる眞の神道を明治の新政に結び付けたる中心人物である失野玄道の「獻芹詹語」に曰く『天御中主大神及皇產靈大神は天地日月も未だ無かりし、謂ゆる無始の時より高天原に大座々候て天神地祇を始、天地日月星辰、凡て兩間に有ゆる萬物をば悉く御鎔化鑄造被遊候大御神にまします』

扶桑教の開祖宍野半曰く「天御中主神は天祖天神と申し、天地を鎔造し給ひて八百萬神を產み、其他草木の類に至るまで其御德を以て生ぜしめ、又人に魂をも賦與し給ふ神なれば一字不說の卷（富士講の元祖伊藤身祿尊師の著書）に天照大御神も木花之佐久夜毘賣命（富士山の守護神）も川の鱗に至るまで皆悉く天祖天神の御子なり」

垂加神道の創唱者山崎闇齋曰く「神代の神々は天神七代、地神五代であるが、其中、國常立尊と天御中主尊とは異名同體であつて、之は天地全體の神である、無形であるが、而も八百萬の神から天下の萬民に至るまで、すべて此尊の化する所である。故に之を造化の神と云ふのである」

渡邊重石丸曰く「天之御中主大神は宇宙創造の眞宰にして、八百萬神、千萬物の元本御祖に座す」

南里有隣曰く「天地萬物みづから開くること能はず、又必先一人の大能藝を備ふる魂ありて、計

りて之を作る。其最初見計りて作る者誰ぞや、天之御中主命これ也」

神道神學の最高峰と仰がるゝ平田篤胤は其著『俗神道大意』の始に眞の神道は天地萬物の創物主の道であることを述べて曰く「まづ眞の神道と申すは、古道の大意に申たる如く、この天地を御造り遊ばしたる天つ神高御産靈、神産靈の神の始めまして、伊邪那岐、伊邪那美の神の御受繼あそばして、世に有りと有る事物の本を御始めなされ、又その事物を悉に持分けしろしめす神々を御生みなされて、其功德は天照大御神に御傳へあそばし、さて皇御孫邇々藝の命が御天降り遊ばさるゝ時、天つ御祖産靈の御神、天照大御神より皇御孫命の御代々々、天の下を知し召す御政のやうを御傳へあそばし、扨御代々々の天皇はその御依しのまに〳〵己命の御さかしらを御加へあそばさず、天地と共に御世しろしめすことちやが、此の道をさして神道と申したることでござる」と。

『日本神道聖典』に曰く「天照大御神が御親ら吾々子孫のために祭られ、又吾々にも厚く信じて祭れと敎へ給はられし天之御中主神は未だ天地の生ぜざりし時より高天原に位し、宇宙萬物を創造して主宰し給へる眞の大靈にましまし、其の陽性的活動靈の御名を高御産靈と稱し、其の陰性的活動靈の御名を神御産靈神と稱し奉り、……宇宙の到る處に實在し、人智を以ては到底察知する事能はざる太古より今日に到る迄活動して更に、滅せざるが如く永遠無限に不死不滅の大生命と森羅萬象の生成、變化活動の律法を定むる所の法定力と萬物を創造する微妙の創造力と絶大なる宇宙統治力と萬物を賞罰する絶對自由の權力とを有し、人間は勿論宇宙の萬物に生命を與へ、不眠不休に大活動せられ、無限に慈愛ましまし給ふ實に貴き神なり」

太田亮曰く「如何なる神が、太古我が民族に崇敬されてゐたかを考ふるや予輩は産靈神がそれでないかと思ふのである。それは此の神が宮中八神殿の首位を占められ、又出雲大社も此の神でないかと思はれ、顯宗紀に見ゆる如く對馬、壹岐の神の託宣にも此の神の事を「天地を鎔造するに預り給ふの功あり」と載せ、又神話の上にも、天祖を除き奉れば、高天原にても出雲にても極めて高位を占めて居られる故である。猶ほ祝詞の神漏伎命、神漏彌命と云ふのも高皇産靈、神皇産靈を指すと『古語拾遺』に載せてゐる」

以上述べたる通り、本居、平田其他の有名なる國學者、神道學者等の解釋によれば我國の古典に記されてゐる造化三神はカトリック敎の神と同じく天地萬物の造者主宰である。我等の祖先は此創造神卽ち産靈神を最も深く崇敬したのであるが、其後創造神、主宰神を否定する佛敎が渡來し其の

影響に因りて益々此神を忘れるやうになつた。平田篤胤は大に之を慨嘆して其名著『古道大意』に斯う書いてゐる『世に神々はいとも〳〵多くおはしませども、此の造化の御神はその大本にましまして、殊さらに尊くおはしまし、有るが中にも仰ぎ奉るべく崇め奉るべきは此の神様でござる。それゆゑに、神武天皇の御代に、天皇命御自ら、鳥見の山中に、祭時を御立あそばして、御祭なされ、又八柱の神々を朝廷の御守神と御祭りなされたるが、其の第一に、此の御産靈神二柱を御祭りなされたでござる。扨かほどまでにも、産靈の御神を重く御祭りなされ、また右に申す通り、から、南蠻、くろんぼうの國々でさへ此の神の御徳をば第一と崇め奉ることの中に、その神國に生れて神の御末とある此の御國の人のよく辨へて齋き奉らぬと申すは、あまりといへば勿體なさ過ぎて畏きことの限りでござる。……世間の人々がさうなつた根本の原因は、今まで、世々の學者が理由のない支那崇拜、聞き囓つた佛教崇拜の結果、この神の御徳に注意せず、世間に注意も促さなかつた故でござる。但し、その生さかしらな學者どもはそれにして置いても、近くはよつく世の中の人の言ふことに「それは御天道様のなされる事ぢや」の、或は「御天道様が此の方をさやうに御生みつけなされた」のと言ひますが、その天道さまといふのは何の事とも知らず、申さば、むちやで申してゐるが、それは古に此の神の御徳を世の人が能く辨へて、かの「拾遺集」の歌に「君見れば、産靈の神ぞ恨めしき、つれなき人を何つくりけむ」といつた心ばへに申したる詞と意との殘つて居るのでござる、何はともあれ、此の神の尊ぶべく齋き奉るべき謂はれを聞かぬ内は、そりや爲方が無いが、もう斯様に聞いて成程と思つたならば、速にその神號を覺え奉つて、齋き奉るが宜いでござる、なぜと申すに、そりやくどいやうなれども、天地をさへに御造り遊ばし、また萬の事を司られる諸の神たちも此御徳によつて御出來遊ばしたる程のことで天地の有らん限りどころではなく、未だ天地も無かりし以前よりおはしましたるを以て見れば、たとひ天地は如何になるとも、世に無窮におはしまして、幸ひ惠み給ひ、既に此方お互、釋迦も孔子も、猫も杓子も、みな神の産靈の妙なる御靈によつて生れ出でたるものぢやによつて、その生を忘れ奉らぬ道の誠を辿るのでござる。……故に産靈神の御徳こそ、私達が口にするのも恐れ多い程廣大なので、返す返すも此の御神の御徳は朝に夕に忘れ奉らぬやうに、それはきつと心得られるが宜しいでござる。』

以上論證したる所に據り、カトリック教の神は我國の神典『古事記』の冒頭に記されてゐる造化三神に外ならぬこと、伊邪那岐、伊邪那美の二神を始め、天照大御神、神武天皇等の皇祖皇宗は深

く此神を尊崇せられたること、又日本精神及び日本の國體と最も密接の關係を有する眞の神道は斯道の大權威である平田篤胤の證言に依りカトリック教と同じく造物主の教であることが明白である。其外日本の國體と衝突するやうに非難された教會至上主義、不寛容主義及び日本精神の中にて特に世人がカトリック教と相容れないやうに誤解してゐる敬神崇祖、武士道、忠君愛國、現世的、樂天的に就いては本書中に論述する通りカトリック教は毫も日本の國體にも其等の美點長所にも矛盾せざるのみならず、却つて益々之を發展完成するものである。

實際此地球上にカトリック教會と日本帝國ほど相類似してゐるものは無い。日本は「神の國」と呼ばれてゐるが、カトリック教會も「神の國」と呼ばれてゐる。日本帝國は神武天皇より二千六百年の間、皇統連綿、萬世一系の皇室を奉戴してゐるが、カトリック教會も聖ペトロ以來一千九百年の間法統連綿たる羅馬教皇を奉戴してゐる。日本の皇室が天壤と與に窮りなかるべきが如く羅馬教皇も世の終りまで續くであらう。日本臣民は皇室を中心にして堅く一致團結してゐる如く、カトリック教徒も羅馬教皇を中心として靈的に一致團結してゐる。日本帝國が八百萬神や國家の忠臣義士及び偉大なる人物を神社に奉祝する如くカトリック教會も無數の天使聖人を聖堂に於て崇敬し紀念する。日本帝國が無神無靈魂論、唯物論、共産主義を排擊し、全世界を赤禍より救ひ、永遠の平和を確立せんがため上下心を同じく勇戰奮鬪して居る如く、カトリック教會も全く同じ目的のため勇戰奮鬪してゐる。神武天皇が八紘一宇の大理想を懷かれた如く、カトリック教會も四海同胞主義を理想とする。日本が皇祖皇宗の御遺訓を重んずる如くカトリック教會も使徒傳來の教訓を重んずる。明治天皇の教育勅語に明示されたる道はカトリック教と完全に一致し「之を古今に通じて謬らず、之を中外に施して悖らざる」大眞理である。實に日本帝國とカトリック教會とは其の目的、理想を全く同じうする二大偉觀である。日本帝國が俗界に於て萬邦無比である如く、カトリック教會は靈界に於て他に比類を見ない。此の兩者が一致協力して初めて八紘一宇の大理想を實現し、世界永遠の平和を確立することが出來る。從來此兩者の間に矛盾衝突あるが如く思はれたのは全く誤解である。我日本帝國の萬邦無比の國體を擁護し、唯物無神の謬說と戰ひ、赤禍を撲滅して日本精神を發展完成するためにカトリック教の協力が何よりも有效有力であることは吾人の確信して疑はざる所である、平田篤胤一派の復古神道學者がカトリック教の神學、哲學を採用し、眞正の神道、眞正の日本精神を闡明して王政復古、明治維新を實現したるは此大眞理を證明して餘りある。敬神崇

祖忠君愛國の美德に惠まれたる我が親愛なる同胞日本人よ、願はくは此の小著によりて日本精神とカトリック教との關係を悟り、一日も早くカトリック教を採用し、自己の靈魂の永遠の幸福を全うすると同時に、東亞の新秩序と世界永遠の平和との確立に邁進せられんことを。

昭和十四年十二月二十八日

著者識す

日本精神とカトリック教

平田篤胤の日本精神に對するカトリック教の影響

山口鹿三著

日本精神の權化、復古神道の大成者、神道神學の第一人者と仰がれてゐる平田篤胤が偉大なるカトリック信者であつたことは、カトリック教が日本精神に反するものでなく、却つて之を完成するものであることを最も雄辯に立證するものである。

平田篤胤がカトリック信者であつたと云ふのは普通の意味の信者とは少し異ふから一言之を辯解する必要がある。彼は德川幕府の基督教嚴禁時代の人物であるから、洗禮の秘蹟は受けなかつたであらうが、國禁を犯して支那で發行せられたカトリック教の書籍を手に入れ、窃に之を研究して其

教義に深く共鳴を感じ、自ら之を信仰して大なる慰安を受けたばかりでなく、カトリックに基いて神道神學に一大改革を施し、其時まで佛教的或は儒教的であつた日本の神道を著しくカトリック的ならしめた、と云ふ意味に於て、余は彼をカトリック信者と謂ふのである。

前記の事實を述ぶる前に、先づ平田篤胤の略傳を掲げるのが順序であると思はれる。彼は江戸時代の安正五年今の秋田市に生れ、二十歳、無一文で、江戸即ち今の東京に來り、或は車夫となり、消防夫となり、或時は當時の名優市川團十郎の弟子となり、或時は商店の炊事係となりて刻苦勉勵、獨學にて和漢儒佛の書を研究し、終に大學者となつた。非常に難解な漢文で書かれてある五千四十八卷の大藏經を三回も通讀したと云はれるほど其精力は絶倫であつた。東脩の門弟五百人、尋常入門の者二千餘人、著書百餘部千餘卷。天保十四年閏九月十一日「思ふこと一つも神に勤め終へず、けふやまかるか可惜此の世を」の辭世を殘して鄕里秋田に歿した。時に年六十八歳。明治十六年特旨を以て正四位を贈らる。秋田市彌高神社、埼玉の櫻木神社、東京の小石川第六天町の平田神社は其靈を祀つたものである。

さて平田篤胤が支那に布教してゐた天主教宣教師の著作せる漢文のカトリック教書『畸人十編』『天主實義』『七克七書』等を手に入れ窃に之を研究し、深く之に共鳴を感じて、自分も之を信仰して大なる慰藉を得たるのみならず、カトリック教の教義に從つて日本の神道を改革したる事實は仙臺東北大學教授村岡典嗣先生の研究によりて明かに知られるやうになつた。村岡先生は東大の姉崎博士、京大の新村博士などの如く有名なる切支丹研究者である。先生は其著『日本思想史研究』（東京市神田區北甲賀町四、岡書院發行、定價五圓）中に『平田篤胤の神學に於ける耶蘇教の影響』と題して其の詳細なる考證を發表せられてある。

村岡先生は先づ平田篤胤が神道神學に創造主たる造化神と來世に於ける賞罰との觀念を新に入れたる事實を擧げたる後、次の通り述べられてある。

『平田の神道に於ける斯くの如き思想の發生は、實に、耶蘇教の影響に由來する。平田が、當時の西洋の知識に、多少とも接してゐたことは、天文學的開闢說を說いた靈の眞柱を始め、一般に知られた彼の著書中に、徵證が少くない。殊に舊約全書創世記の說を幾分知つてゐたことは、前記二神（伊邪那岐、伊邪那美二神）に阿陀卑、延波を擬した所にも見えるが、その他造物主と記してゴツトと振假名し、天津神に之を擬した場合もまゝある。

平田が耶蘇教の影響を受けた最も明瞭な證據は、彼が文化三年（三十一歳）著の、二卷の未定稿本『本教外編』（平田篤胤全集第二に收む）そのものに存する。いま、假に、上卷を第一部、第二部、第三部、下卷を第四部、第五部に分つて述べる。

（一）、第三部に就て見るに、第一（逸題）。第二人於今世惟僑寓耳。第三常に死候を念ず。第四常に死候を念じ、死時の審に備ふ。第五希言而欲無言。第六齋素正旨非由戒殺。第七（逸題）。第八善惡之報在身之後。第九妄に未來を念うて、自凶を招く。第十富て貪吝なるは貧窶よりも苦し等、十段に亙つて記した所は、實に、明の利瑪竇（Mathoeus Ricci）の畸人十編（萬曆三十六年成）の人壽既過誤猶爲有、第一、人於今世惟僑寓耳。第二、常念死候利行爲祥。第三、常念死候備死後審。第四、君子希言而欲無言。第五、齋素正旨非由戒殺。第六、自省自責無爲尤。第七、善惡之報在身之後。第八、妄詢未來自速身凶。第九、及び、富而貪吝苦貧窶。第十の各章に、多少の省略補正を施して、或は直譯し、或は意譯し、又變改を加へたものである。今、その變改の二三例を擧げれば、原書には、李太宰、馮大宗、徐太史、曹給諫、李水部、吳大參、龍參、郭某諸氏と利氏との問答、及び一方に對する利氏の訓戒として記されたのを、凡て改めて、「或人」や「漢學者」と自分との問答としたのを始め、或は原書の天主若くは上帝を、天つ神、天祖神、皇祖神に改め、天之主宰を幽神となし、或は特に、「或人、神道の自省自責の事を問へるに答へけらく」の問を加へて章を起し（第七）、或は「不識貴教如何」とあるを、「貴教は如何」と爲し（第八）或は「佛氏竊聞。吾西方天堂地獄之說」を、「梵士竊に、天つ國根の國の語を聞き」となし（第八）、或は、「大參曰。竊聽精論卽心思。吾中國經書。與貴邦經典相應相證。（中略）但貴邦經典全存。故天堂地獄之說。爲詳備。吾儒書會遇秦火焉。」とあるのを、「儒生曰く、論によりて竊に思ふに、吾が學ぶ經書の趣きと、御國の神典の趣きと相符へり。但し、御國の古傳全く存する故に、幽世の說詳備たることを致す。儒書は早く秦火に遇ふ。故に殘缺多くして、後の世の報應具に明ならず」（第八）と、改めた類ひである。十編によつて外編が記した思想が、主として來世應報說にあることは、題目の示す如くである。

（二）第二部は「儒生曰く」「篤胤曰く」の問答として記されてゐるが、その所論中には、天帝の天地に先存する論。太極の天地の主とすべからざる論。善は全に成り惡は一に敗るの論。子孫の善惡は、自ら子孫の賞罰あり、善惡の應報は死後に存すべき論。草木、禽獸、人類の三者に、夫々生

魂、覺魂、靈魂ある論等、いづれも同じ利瑪竇が天主實義（萬曆三十一年成）に於いて、西子對中子の問答として記したところと、言說を同じうしてゐるのみならず、例へば、「義の爲にして窘難を被る者は、これ卽ち眞福にて、その己に天國を得て死せざると爲るなり。それ、神道の奧妙、豈人意を以て測度すべけむや」の如く、山上垂訓中の語を交へたりした。

（三）、第一部の最初に載せた「樹之根本在地」「牧童有憂」の二篇の誌は、「畸人十編」卷末の、附西琴曲意八章の、第一（吾願在上）第二（牧童遊山）の載錄である。

（四）下卷の殆んど全部を占める第五部は、凡て漢文であるが、その內容は、「爲天帝爲善。是則與天帝也。行善右手所爲。勿使左手知。是眞陰德也。」「愛愛爾者最安。惡人亦能之。能愛讐爾者。能惠惡爾者。乃爲上帝子也。」「眞福八端其一曰。心淨者乃眞福。其己得見上帝也。」「爾曹不忠于天地主。而忠我乎。」等、新約全書に由來せる文句を始め、明らかに耶蘇敎書の語の集錄である。而してその編次を見ると、伏傲以謙、平妬以恕、熄忿以忍、解貪以惠、塞饕以節、防淫以貞、策怠以勤の七つで、思ふにこは、四庫全書總目中に出でた明の龐廸我（Didacus de Pantoja）が七克七書（萬曆三十二年成）の、伏傲、平妬、解貪、熄忿、塞饕、防淫、策怠の七目に當つてゐる。或は同書の抄錄などであらう。（この事、後に七克七書を閲して確かめ得た。）

以上の考證によつて、前記の神學思想の由來する所が何處にあるかは、最早明瞭である。本敎外編後、七八年を經て成つた古史傳造化三神の條、約二十年を經て成つた同大國主神の條を、外編に比較して、その思想に於てのみならず用語に於て、（例へば主宰、至善、靈性、自造の惡、眞福、眞殃、傲遊、審判、寓世等の如き）その再現を示すものが少くないのを思ふと、平田が、如何に耶蘇敎書に學んだ所の深いかは察知される。

なほ、畸人十編、天主實義、七克七書等は、貞享三年選定の三十四種禁書中の主なものであるが、制禁後に於いても是等の書が、一部の學者の間には、私かに讀まれもし、寫されもしたことは、信ずべき理由があり、少くとも畸人十編については、徵證をも有する。殊に、篤胤の時代となつては、事實上禁も弛んだものと思はれる。篤胤が私かに是等の書を讀んだことは、敢へて怪むに足らぬ。』

以上引證したる村岡敎授の考證に據り、平田篤胤が漢文のカトリック敎書を深く研究して全く之に心服し、カトリック宣敎師の說を其儘そつくり自分の說として採用したことが明白である。

平田篤胤がカトリック敎を採用して、日本の神典をカトリック敎に從つて解釋し、神道神學に大

改革を施したる中にて最も肝要なるものは造化三神の說と來世の賞罰の說である。平田は無神無靈魂主義を奉ずる佛教のため、日本の神道が其眞相を隱蔽されてゐるのを憤慨し、『出定笑語』と題する書を著はして、「神國」と呼ばるゝ日本の精神に正反對なる佛教を極力排斥すると同時に、カトリック教の教義を採用して全能全知全善なる天地の創造主、主宰神又は來世に於て賞罰を施すべき審判者なる造化三神の新說を首唱した。卽ち彼は其著『古史成文』に、天御中主神を、宇宙の萬物を主宰り給ふ神、產靈神（高皇產靈神、神皇產靈神）を、天地世界を創造し、人種萬物を生成し、又人間に至善の靈性を賦與せる祖神と爲し、三神の、本居も言つた「天地よりも先に始めなく」存した意義を明らかならしめるが爲に、古事記卷頭の「天地初發之時於高天原成神名」の一句を書紀一書を參照して「古天地未生之時。於高天原有神矣。御名云々」と改め、更に又、造化神の產靈の德によつて國土、諸神を生んだ伊邪那岐、伊邪那美二神に、阿陀牟、延波を擬し、紀記に缺けた人類創造の意を、特に鎭火祭祝詞の「生給八百萬之神」の語に解して、之を補つた。大乘佛教は汎神論を主張し、創造神、主宰神、審判神を否認し、萬有卽神、神卽萬有を唱へるに反對して、平田はカトリック教と同じく神は天地萬物に先住する無始無終の超越神にして　萬有を創造し主宰するものとした。

平田が此造化三神の說を唱へてから日本の神道に大變革を生じた。其時まで神道にては佛教の感化を受けて造化三神を殆んど全く閑却した。造化三神を祀る神社は殆んど跡を絕つてゐた。然るに一朝平田が造化三神の新解釋を唱道するや、爭つて造化三神を祀るやうになつた。平田篤胤の養嗣子平田鐵胤の門人、宍野半を立教者と仰ぐ扶桑教にては、造化三神を一體の眞神として祀り、其の以前富士講と稱し、表大日如來、裏藥師如來と稱せられてゐた佛山富士山を改革して神山となし、造化三神を主神となし、富士山上にて之を禮拜することにした。其他實行教にても同じく造化三神を一體の眞神として祀るやうになつた。今日宗教神道十三派中造化三神を祀らないものは殆んどないやうになつたのは平田篤胤の感化であると云つても過言ではないであらう。

次に平田が唱へたのは、カトリックの來世賞罰觀である。元來神道は現世教で來世を說かなかつた。然るに平田はカトリック教の教義に基いて來世賞罰說を唱へた。彼は大國主神について、その顯明事を皇孫に讓つて、「吾退而將治幽冥事」と言つた幽冥とは、本居の所謂夜見ではなく、死後の靈魂の世界であり、幽冥事とは靈魂の支配である。人は、死後形體は土に歸り、靈性は幽冥に入

つて滅ることなく生きる。抑も善惡の應報が、必ずしも正當に行はれないのは、現世に於ける否定すべからざる事實である。この事實には深い理由がある。元來人性は、產靈神の靈性を分有したもので、至善であり、隨つて善惡を辨別し得るものであるが、夫にも拘らず、人間が往々善を捨てゝ惡につくのは、善神と共に存する邪神の爲に禍されるので、之を人性から言へば、自ら造る惡である。邪神の存在は、人間をして眞に德行を磨き成さしめる爲に益があるので、產靈神が邪神の邪行を看過するのは、この故である。同樣に、神が往々善人を苦ませるのも、小過を自省せしめ、傲に陷らしめず、益々善ならしめむが爲である。而して、善惡に對する眞の應報は、現世に存しないで幽世に入つて、隱善、隱惡は嚴密に賞罰され、善者の靈魂は永久の幸福を受け、惡者の靈魂は永久の苦難を蒙る。これ卽ち、來世の審判である。かるが故に、現世の富貴や幸福は眞福でなく、現世の貧賤や不幸は眞殃でない。否、現世に於て富み且つ幸ひな者が大方傲遊に耽つて德行を勉めること少く、貧しくかつ幸ひな者が、却つて身操を守り德行を强めるのが多いのを見れば、現世の福は寧ろ眞殃、現世の殃は寧ろ眞福である。斯くて、現世は畢竟善惡を試み定める爲の寓世、幽世こそ本つ世である。大國主神は實に、この幽世を支配し、善惡を審判する神、同神を祭る出雲大社は本

廷であるとなし、一條兼良が「顯事人道也。幽事神道也。人爲ニ惡於顯明之地一。則皇誅レ之。爲ニ惡於幽冥之中一。則神蜀レ之。爲レ善獲レ福亦同之。神事則冥府之事也。」（日本紀纂疏）の解は「この幽旨を見得たる」「漢語に言へれど信に明らけき說」となした（古史成文第百二十三段傳）

前記の說例へば「邪神（惡魔）の存在は、人間をして眞に德行を磨き成さしめる爲に益があるので、產靈神（天主）が邪神の邪行を看過する」とか「善惡に對する眞の應報は、現世に存しないで幽世（來世）に存する」とか「來世の審判」とか「現世は畢竟善惡を試み定める爲の寓世、幽世こそ本つ世（本國）である」とかいふ思想は佛敎には勿論、儒敎にも道敎にも神道にも無かつた新思想で平田が漢文のカトリック敎書より學んだものである。彼は思想ばかりでなく「審判」とか「眞福」とか云ふやうなカトリック敎の用語までも其儘襲用してゐる。

村岡典嗣先生も申されてある如く、平田がかゝるカトリック的來世思想を成立させて來た時代は、初の妻の死、次男（長男は前に歿した）の病氣、引續いて死等の凶事あり、その間たえず非常な困窮に苦められた時で、强い意志の人なる彼も、天下の道に志して我こそはと仕じてゐる身にふりかゝる數々の患難に對しては、さすが苦悶と疑惑とに堪えかねた。この頃の心事は先妻をなくした頃

の歌

天地の神はなきかもおはすかも
　などこの禍を見つゝ坐すらむ

哀てふ事の限りを知れとてや
　世の憂きことを我につどへけむ

（文化九年先妻歿、平田卅七歳）

又文化の末、上京中の件信友におくつて近況を報じた書翰の一節に

野弟は忙しくも何ともなけれど、漢人も申候窮壯、それに悴が病氣、其中に大業を成就せむとの苦み戎人伯夷が傳、司馬遷云、天は是か非かと云へり。篤胤も云、神は是か非かとあるのを見ても知られる。彼ほどの偉大なる人物でも此世にては、絶えず種々の困難不幸に苦められ、天地の神は果して無いか有るか、天道は是か非か、と煩悶の極、カトリック教の人生觀、來世觀を知りて、深く之に共鳴し、是こそ萬古不磨の大眞理であると確信して、自らも之によりて大に慰め勵まされ、又之を其神道の教義に取り入れたものと思はれるのである。

以上述べたる通り、日本精神の代表者、日本主義の元祖、忠君愛國の模範、復古神道の大成者、國粋保存の卒先者として國民の景慕を一身に集めてゐる平田篤胤が極力佛教、儒教を排擊したにも拘はらずカトリック教に對しては滿腔の同情を感じ、其教義を採用して日本の神道を完成せんとした事實は日本精神とカトリック教とは毫も相背反するものでなく本質的に相一致することを立證するものである。御主イエズス・キリスト曰く「我律法若くは預言者を廢せんとて來れりと思ふこと勿れ、廢せんとて來りしには非ず、全うせんが爲なり」（マテオ五の十七）と。

カトリック教と日本精神

日本精神とは日本の國民精神卽ち日本魂或は日本心である。近頃我邦にも國民精神の作興、日本精神の提唱が盛に鼓吹せられ、之に關する書籍、雜誌類も夥しく發行せられ、あらゆる方面より日

本精神が論ぜられてゐる。神道と日本精神は言ふまでもなく、儒教と日本精神、佛教と日本精神、基督教と日本精神などと云ふ題目の單行本や雜誌記事が能く見える。此民族主義の高調は決して我日本のみに限られる事ではなく、現下の世界的流行である。獨逸のヒットラー政策、ナチスの新國民主義はドイツ魂の純乎たるものを發現せんと努力してゐる。伊太利のムッソリーニ政策、ファッショの國粹運動は矢張りイタリア魂の發揮に外ならぬ。そこで吾人も玆にカトリック教と日本精神と云ふ題を掲げたのは單に世間の流行に追隨するのではなく、我邦の最も有名なる學者、大宗教家の中にさへ、カトリック教は日本精神と調和しないとか、耶蘇教は日本の國體に合はないとか云ふやうな偏見を懷いて居られるお方が少くないから、其謬見を匡してカトリック教は決して日本精神に反對するものではなく、却つて他の如何なる宗教よりも能く日本精神と一致和合するばかりでなく、日本精神を益々健全に發展させるものであることを論ずるのはカトリック信者としてばかりでなく、日本帝國の忠良なる臣民としての義務であると信ずる故である。

先づ道理上から考へても、カトリック教と日本精神とが矛盾衝突する筈が無い。何となれば日本精神と云ふのは日本の民族性の精髄英華、日本人の美點長所、日本の國民性に著しく顯はれた眞、善、美である。日本の民族性には缺點も短所もあるが日本精神と云ふ語は其缺點短所を除外した理想的の美點長所のみを指すものである。是は日本精神の作興と云ふ語を見ても明かである。隨つて眞、善、美の宗教であるカトリック教と同じく眞、善、美を理想とする日本精神とが矛盾衝突する筈はないのである。

次に實際上、日本精神を構成する美點長所の一つ一つに就て見るも、カトリック教と背反するものは一つも發見することが出來ない。之が爲め、先づ日本精神的研究大家の說を次に掲ぐ

文學博士芳賀矢一氏は其の名著「國民性十論」に日本民族の長所として（1）忠君愛國（2）祖先を崇び家名を重んず（3）現世的、實際的（4）草木を愛し自然を喜ぶ（5）樂天洒落（6）淡白瀟洒（7）纖麗纖巧（8）清淨潔白（9）禮節作法（10）溫和寬恕の十項を擧げてゐる。文學博士井上哲次郎氏の「國民道德概論」には日本の國民性として（1）現實性（2）樂天性（3）單純性（4）淡白性（5）潔白性（6）感激性（7）應化性（8）統一性（9）短氣性（10）依賴性（11）淺薄性（12）鋭敏性（13）狹小性（14）虛榮性の十四點を列擧してあるが、短氣性以下は美點ではなく缺點である。

文學博士野田義夫氏の「日本國民性の研究」には長所として、（1）忠誠（2）潔白（3）武勇（4）名譽心（5）現實性（6）快活淡白（7）鋭敏（8）優美（9）同化性（10）懇懃を擧げ、その長所に伴ひそれぞれの短所としては（1）排外思想、依賴心、自治及び公共心の缺乏（2）潔癖の不徹底（3）虚勢、負け嫌、武斷、武骨（4）虚榮心、笑はれることを恐る、自負心、嫉妬（5）計畫卑近、近視眼的、今日主義（6）お祭騒ぎ、輕便主義、經濟思想に乏し、商業道德の短（7）輕卒、深き研究に長せず、飽き性、流行を逐ふ、短慮、中流以上の怠惰、一時的勤勉（8）纖巧、小規模（9）外國崇拜、雷同附和（10）繁文縟禮、拘泥、禮儀の强要、感情の抑壓、等を擧げてゐる。

次に大島正德氏の「世界心、國家心、個人心」といふ書にも、長所として（1）忠君愛國（2）先祖崇拜、家族本位（3）武士道（4）器用なること（5）情調的なることを擧げ、短所として（1）公共的精神の缺乏（2）自治自立的精神の缺乏（3）人格價値觀念の缺乏（4）精神的内面の空乏（5）精神的創意力の缺乏（6）精力の缺乏（7）國語國字の缺陷を論じてをる。

村上辰午郎氏の「日本國民道德」には先づ至誠性、忠君愛國、崇祖性、名譽性、同化性、現實性、快活性、樂天性、單純淡白性、潔白性、武勇性、溫和性、優美性、節度性、鋭敏性の長所十五點を擧げ、次いで短氣性、多感性、浮薄性、狹小性、狹量性、姑息性、依賴性、虚榮性、吝嗇强慾性、無規律性の短所十點を述べてある。

又坂井衡平氏の「日本國民性論」には、我が上代の國民性として（1）敬神忠君性と崇祖氏族性（2）平和優美性（3）男性的性情（4）勤勉忍耐性（5）包容調和性（6）階級的平等性（7）單純淺小性を數へ、佛教渡來以後平安時代に至る國民性として（1）敬神忠君性と（2）崇祖氏族性との外來思想による影響並に發達を說き（3）階級性（4）榮華享樂性（5）優美風雅性（6）女性的性情（7）無常厭世性（8）來世宿命性（9）調和同化性（10）門閥貴族性を述べ、次に武家時代に於ける國民性を（1）二元的階級性（皇家と公家社會と武家幕府系統の社會）（2）敬神忠君性（3）崇祖氏族性（4）義理質實性（5）素朴自然性（6）信心和樂性（7）男性的性情（8）自王對外性（9）制限的非自覺性（依らしむべし、知らしむべからずと云ふ風の性質）であるとし最後に明治時代以後の國民性として（1）敬神忠君性と（2）崇祖民族性との内容の變化を說き、更に（3）階級的平等性（4）男性的性情（5）調和模倣性（6）

國家的性情（7）經濟的性情（8）社會的性情（9）文化的性情を擧げて說明してゐる。

國學院大學教授河野省三博士は其著「國民道德概要」に我が表面的國民性の特色として、（1）溫順（2）潔白（3）淡白（4）優美（5）寬弘（6）尙武（7）樂天（8）銳敏（9）保守の九點を擧げ、更に一層深く其の根源となり、基礎となつてゐる根本的國民性として（1）統一性（2）永遠性（3）純眞性の三特色を說いてある。

又紀平正美博士は日本精神の特色は（1）何くそ（2）清明心（3）武士道的訓練（4）概念の確立（5）あかぬけの五つであるとしてゐる。

最後に文部省より發行せられた思想問題小輯（五）に東京帝國大學助教授兼國民精神文化研究所員久松潛一氏は日本の民族精神として（1）敬神（2）忠君愛國（3）家の尊重（4）武士道（5）義理の精神（6）眞實と「まこと」（7）調和と「ものゝあはれ」（8）象徵と幽玄「さび」（9）型と平淡（10）傳統の尊重の十方面を擧げ、初めの五方面は日本精神の實質とも云ふべき方面であり、後の五方面はさういふ實質に伴つて生ずる心構へとか態度とかいふべき方面である、と申されてある。

以上例擧したる諸大家の說に依り、大略日本精神の特色を理解することが出來る。吾人は次に是等の主要なる特色就中世人がカトリック教と相容れないやうに誤解してゐる點に就て論ずるつもりである。

(1) 敬神崇祖

古來我國は神州と呼ばれてゐる。神皇正統記のはじめにも「大日本は神國なり」とある。又我國は祖先崇拜の國である。祖先崇拜とは祖先の靈魂の不滅を信じ、之に對して感恩報謝の意を表することである。故に敬神崇祖の根本的條件は神の存在と靈魂不滅とを確信することである。隨つて神の存在と靈魂不滅とを否定する唯物論或は無神無靈魂を根本的信條とする佛敎は敬神崇祖に正反對であることは申すまでもあるまい。けれども神の存在と靈魂不滅とを確信し、此信仰を擁護するため最も勇敢に奮鬪するカトリック敎は敬神崇祖の最大なる保護者である。

(2) 武士道

武士道は日本の花である。古來我邦の諺に「花は櫻に人は武士」とか「人は武士、柱は檜の木、

魚は鯛、小袖は紅梅、花は三吉野」とか云はれ、武士は士農工商の四階級の最上位に崇められてゐる。之に反して、支那の有名なる俚謠には「好鐵不打釘。好人不當兵」と云ふのがある。此諺は各國語に飜譯されてある。例へば羅甸語にては Bono curro non cubuntur, clabi boni viri non agunt milites と譯され、佛語にては On ne fait pas de clous avec du bon fer, les honnêtes gens ne se font pas soldats と譯されてある。日本語では「好い鐵では釘を作らぬ、好い人は兵士にならぬ」とでも譯されるであらう。丁度日本と正反對である。是では支那軍は日本軍に勝てない筈である。日本では武士を尊敬するから日本軍は世界無比であるのである。日本が世界五大强國の一に算へられるやうになつたのも此精鋭無比なる軍隊の御蔭である。

然るに基督は「敵をも愛せ」とか「人若し汝の右の頰を打たば之に左の頰を向けよ」と云つて無抵抗主義を敎へたから、カトリック敎は武士道と兩立することが出來ないであらう、と誤解する者がある。實際プロテスタント敎の中には戰爭を絶對に否認して軍人となることを忌避するものがある。クエーカー敎徒やセヴンス・デー・アドヴェンチスト敎徒などが其れである。併しカトリック敎は決して戰爭を絶對的に否認するものではない。正義の戰爭は之を是認するのみならず、國家の爲に一身を犧牲にして名譽の戰死を遂げるのは殉敎者の如きものとして大に稱讃し、尊敬するのである。中世紀の十字軍はカトリック敎徒が聖地エルザレムをマホメット敎徒の手より奪還せんとして戰つたのである。今日までも存在するマルタ騎士團と稱する團體はカトリック軍人が十字軍の時に創立したものである。中世紀の歐洲に有名なる西洋武士道はカトリック敎會と相離るべからざるものであつた。古今を通じて最も有名な軍人は概ね熱心なるカトリック信者であつた。忠君愛國の模範と仰がれてゐる佛國の聖女ジャン・ダーク、最近の世界大戰に於ける聯合軍總司令官フォッシュ元帥の如き卽ち其の好實例である。之を見ても、カトリック敎は武士道に反對する所ではなく、却つて之を擁護し、完成するものであることを知り得るであらう。

(3) 忠君愛國

日本國民が忠君愛國の念に厚きことは、內外人の等しく認める所である。久松潛一氏も日本精神の中心は敬神、忠君、愛國の三精神に在る、と申されてある。此の忠君愛國の最大原因は萬世一系の皇室である。實に我が皇室こそは世界に比類なき寶である。愛國心の原因としては、長い年月の

間、我國が山水明媚、氣候中和で、自然の恩寵を受けて居る事、我國民が從來同一の言語、同一の歴史、同一の人種を有し、互に意志を疎通したる事、我國が未だ曾て他國より侵略せられたことが無く、立派な獨立帝國として存在して來た事などが擧げられるけれども、其の最大なる原因は、我國が連綿たる萬世一系の皇室を載き國民の思想を統一して居る事である。

然るに我邦には、耶蘇教は世界主義、四海同胞主義で人間は甲乙の差別なく治く愛するのであるから、忠君愛國の精神に背く、實際バイブルの中には忠君、愛國の教順が無い、などと飛んでもない謬說を唱へる者が學者、教育家などの中にさへも隨分ある。吾人は幾度も此の謬說を辯駁したことがあるから、玆に再び詳論せず、單にバイブルの中には最も權威ある忠君、愛國の教訓が豐富に含まれてある事、耶蘇教の博愛なるものは決して墨子の兼愛說の如く無差別なるものではなく、自分の父母と仇敵を同一視したり、自國と外國と混同するものでない事、及び君に對しては徹底的に忠義を盡さねばならぬと教へる事に就て一言する。

イエズス・キリストは十二使徒を選んで、之を宣教に派遣されんとした時、先づ之に命じて曰く「異邦人の道に往く勿れ、またサマリヤ人の邑々に入る勿れ、寧ろイスラエルの家の迷失へる羊に往け」（マテオ十ノ五、六）と。是れ卽ちキリストが先づ第一に、其本國イスラエルを救ひ、次に世界萬國に及ぼすべきを命じ給うたのである。

又キリストは「汝の近き者を己の如く愛すべし」（マテオ廿二ノ三九）と宣うた。此御言葉に據りて見るも、我等に最も近き君や本國を第一に愛さねばならぬことが判るであらう。

又聖パウロは「人各々上に立てる諸權に服すべし。蓋し權にして神より出でざるはなく、現に在る所の權は神より定められたるものなり、故に權に逆らふ人は神の定に逆らひ、逆らふ人々は己に罪を得」（羅馬書十三ノ一以下）と羅馬の信者に教へ、聖ペトロも「然れば汝等主の爲に、總ての制定したるものに服せよ、卽ち主權者として帝王に服し、又惡人を罰して善人を賞せんが爲に帝王より遣はされたるものとして、凡ての官吏に服せよ。……神を恐れ奉り帝王を尊べ。」（ペトロ前書二ノ十三以下）と羅馬の信者に命じた。當時の羅馬帝王は有名なる暴君ネロで、キリスト教を迫害し、聖ペトロも聖パウロも死刑に處した非道いカトリック教反對者であつたにも拘はらず、此二大使徒は其暴君を尊敬し、彼に服從して忠義を盡すべきことを羅馬のカトリック信者に命令したのである。是は儒教の湯武放伐を是認する思想に反對し、我日本國傳統の忠君思想と一致するものである。

(4) 現世的樂天的

來世の天國を目的となし、十字架卽ち苦難を旗印とするカトリック教は樂天的、現世的である日本精神とは合はないやうに一寸思はれるが決して然うでない。カトリック信者ほど樂天的で、現世の幸福に貢獻するものは無い。是は北海道のトラピスト修道者の生活を見れば能く判る。彼等は此世の名譽、快樂を棄て、最も嚴しい難業苦業をして居るから如何にも厭世的、悲觀的であると見えるが、其實は彼等ほど樂天的な者は無い。彼等は如何なる苦難をも喜んで忍耐する。不平不滿を懷かず、何時もニコ〳〵してゐる。而して每日怠らず働いて不毛の地を開墾して立派な農場となし、バタやチースを製造して北海道の一大產物とした。斯の如く、カトリック修道者は各國各時代に於て社會に二つの大なる貢獻をして居る。卽ち、第一、カトリック修道者は農業家工業家、學者若くは藝術家として社會の安樂と進步とに貢獻し、第二、信仰の人、戒律の人、及ひ獻身犧牲の人として、其感化力に依り、特に其實行の模範に依り、社會の腐敗を豫防する鹽となり、社會の生存と隆盛とに缺くべからざる宗教的信仰と獻身犧牲の精神とを人々に注入するのである。

若し現世的と云ふ語の意味を前記の如く現世の幸福に貢獻する意味でなく、單に現世の名譽、快樂のみを追求し、死後に於ける永遠の生命を閑却する意味に解釋するならば、其は長所ではなく缺點と謂はねばなるまい。平田篤胤はカトリック教の如く「現世は畢竟善惡を試み定める爲の寓生（假の世）幽世（來世）こそ本つ世（本國）である」と言つた。

本居宣長が日本精神を表した有名な歌卽ち「しき島の大和心を人とはゞ朝日に匂ふ山櫻花」と云ふ歌の意味も通常櫻花の如く、パッと咲いて、潔よく、執着が無く風に散ること、卽ち、花々しく戰つて、死を恐れぬ武士の風を表したものであると解釋されてある。此世に執着せず、潔よく祖國のために戰死する武士の風は眞に稱嘆すべき美風である。然し、何事にも櫻花の如く永續性、耐久性が足りない場合は考へ物である。西洋諸國では大抵薔薇の花を賞玩するが、其の理由の一は、其が執念强く幹に着いてゐて雨に遇つても風に吹かれても、屈せず撓まざる持續性、耐久性を賞すると云はれてゐる。兎に角日本國民には多少移り氣で、何事にも飽きつぽい性質がないことはない。偕老同穴を契つた妻にも忽ち飽きて離婚したり、職業でも度々變更したりする惡い傾向があるやうである。村上辰午郎氏は前に引證したる如く、我が國民性の短所として短氣性（同じ事を長く續か

せて行くことが出來ない質性）浮薄性、狹小性、狹量性、姑息性、依頼性、虚榮性等を擧げてゐるが、是等の缺點は永遠無限の雄大崇高なる來世の生命に對する思想と信仰と希望とを與へるカトリック教により矯正せられるであらう。

以上論じたる敬神崇祖、武士道、忠國愛國、現世的、樂天的以外の特徴例へば自然美の趣味、美術心、清淨潔白、傳統の尊重等は日本精神の美點であると同じくカトリック教の長所であることは世人の一般に認めて異義無き所であるから之に就て論ずることは他日の機會に讓る。

カトリック教の孝道及び忠君愛國

明治四十二年我邦學界の元老文學博士法學博士男爵加藤弘之君は東亞協會に於て『倫理教育と耶蘇教』と題する講述をなし其中に左の如く曰れた。

『耶蘇教には忠孝といふことが無い、又愛國心を唱へたことも無いやうである、バイブルを探ぐれば多少あるかも知らぬが先づ無い。四海同胞兄弟で、卽ち人間は同じく愛する主義の如し。第一に神を敬愛し人間は皆同胞兄弟であるから甲乙の差別なく洽く愛する主義であるが如く、歐に忠臣孝子があるは人間の性質、國家の性質が打勝て、此の思想が行はれて居るからである、日本の耶蘇教者に小學中學の教科書を作つて貰ひたい、其内に忠孝愛國を書かれるや否や疑問に堪へない次第である』。（六月五日發行「東京經濟雜誌」第千四百九十三號參看）

耶蘇教には我國體の精髓英華である忠孝の觀念を含有せざるが故に之を信奉する者は勢ひ不忠不孝に陷るを免れぬ、耶蘇教は博愛主義であるから非國家主義である、故に之が信徒たる者は日本魂すなはち愛國心を亡失する恐があるとは實に陳腐極まれる僻說である、今日に於て尙ほ斯の如き愚說を唱へる者は一人も無からうと思ひの外我邦學界の元老と仰がるゝ加藤博士を始め堂々たる學者教育家中斯る謬說を正直に信奉する者吾人の豫想以外に多きが如し、されば是等の僻論謬說を排して耶蘇教特に我が天主公教の孝道及び忠君愛國の觀念の如何なるものなりやを示すは決して無益の業でなからうと信ずる。

耶蘇教は忠孝を教へず或は之を敎ふるも不完全であると云ふ說は毫も耶蘇教特に天主教を知らざる者の言でなければならぬ。苟くも天主教の最も簡單なる教理書にても一見したらんには、其が忠孝を尙び啻に之が實行を勸むるのみならず猶ほ神よりの權を以て嚴重に之を命令することを容易に

發見し得るであらう、試に天主教信者が日課として朝夕誦へる所の公教會祈禱文を見よ、父母の爲に祈るの文及び國王、司權者の爲に祈る語は頗る多きことを發見するであらう、又信者が必携必讀の『公教要理』と稱する極めて簡單なる教理書を一讀せよ、政府、父母、主君等に對する務を懇篤に教訓することを知り得られる、猶更に一歩を進めて同教の教理信條の源泉たる聖書及び聖傳を研究せよ、其が忠孝愛國を訓誡するの周到詳細なるに感嘆するであらう、今聖書中に見ゆる孝道に關する重なる語句を擧ぐれば左の如し。

先づ舊約全書中に見ゆるものを擧げ、然る後に新約全書中の聖言を掲げよう。

『汝の父母を敬へ是は汝の神ヱホバの汝に賜ふ所の地に汝の生命の長からんためなり』（出埃及記二十の十二）。

『汝の主なる天主の汝に命じたまふ如く汝の父母を敬へ、是れ汝の主、天主が汝に賜ふ地に於て汝の生命の永からんため又汝に幸福のあらんためなり』（申命記五の十六）

『其父或は母を毆打せる者は必ず殺るべし』（出埃及記廿一の十五）。

『其父或は母を罵る者は殺るべし』（同上廿一の十七）。

『凡て其父又は其母を呪ふ者（嘲罵する者の義）は必ず殺るべし彼其父又は其母を呪ひたれば其血は己に歸すべきなり』（利未記廿の九）。

『我が子よ汝の父の教訓を聽き汝の母の法則に背く勿れ、是れ汝の頭上の美麗なる冠にして汝の頸の飾となるべし』（箴言一の八九）。

『智慧ある子は父を悦ばせ痴愚なる人は其母を輕んず』（同上十五の廿）。

『父を悲ましめ母を嫌ふ者は恥辱と不幸とを來らす』（同上十九の廿六）。

『其父を戲弄し又其母に從ふことを輕賤する眼は幽谷の烏之を拔き出し鷲の子之を食ふべし』（同上三十の十七）。

『己の父母を嘲罵する者は其の燈火暗黑の中に消滅すべし』（同上二十の廿）。

人に若し我儘にして背き戻る子あり、其父の言にも母の言にも從はず、父母之を譴責するも聽かざる時は其父母之を捕へて其處の門に至り町の長老等に就き町の長老等にいふべし、我等の此子は我儘にして背き戻るもの我等の言に從はざる者放蕩にして酒に耽る者なりと、然る時は町の人皆石を以て之を擣殺すべし』（申命記廿一の十八以下）。

『賢明なる子女は義人の集會なり、從順と愛敬とは其中にあり』（集會書三の一）。

『子たる者よ、父の訓戒を聽き且つ救はれんために之を守れ』（同上三の二）。

『天主は子に於て父の榮譽を顯し、又母の訓戒を求めて之を其子に固定せり』（同上三の三）。

『其母を尊敬する者は財寶を積み蓄ふる者の如し、其父を尊敬する者は善良なる子女を儲けて悅び樂むべし、而して祈禱の時に聽かるべし』（同上三の五六）。

『其父を尊敬する者は長命を保ち、父に從順なる者は母の心を慰藉むべし』（同上三の七）。

『天主を畏敬する者は父母を尊敬し之に事ふること主に事ふるが如くなるべし』（同上二の八）。

『言語、行爲及び完全なる忍耐を以て汝の父を敬へ、是れ其の祝福を得て臨終の時まで之を保たんが爲なり、父の祝福は子の家を堅固にし、母の呪詛は其家を根絶す』（同上三の九、十、十一）。

『父を嘲笑して自ら快とする勿れ、父の耻辱は汝の光榮にあらざるなり、人の光榮は父の榮譽より來り子の耻辱は父の不名譽より來るなり』（同上三の十二、十三）。

『子なる者よ、汝の父の老衰を憐みて之を扶助し、其の老年を悲哀の裏に經過せしむる勿れ、たとひ老耄して愚痴となるも善く之を堪忍し、決して汝の能力に誇りて之を輕賤する勿れ、父に施せる孝愛は決して忘れらるべし』（同上三の十四、十五）。

『善く母の過失を容忍すれば天主は幸福を以て汝に報い汝を正義に固定し艱難の日に汝を思ひ出し春天に氷の溶解するが如く汝の罪科を釋きたまふべし』（同上三の十六、十七）。

『父を見棄る者は耻づべき哉、母を憤怒せしむる者は天主に呪詛るゝ也』（同上三の十八）。

『汝の全福の精神を以て汝の父を尊敬せよ汝の母の苦勞を忘るゝ勿れ、父母に依らざれば生れ出ること能はざりしを憶ひ、彼等が汝に爲せる如く彼等に返報せよ』（同上七の廿九、三十）。

『富貴榮華の間にありて汝の父母を忘るゝ勿れ、恐くは天主も亦其前に汝を忘れ、而して汝は其交際によりて智慧暗み耻辱を招き却て生れ出でざりしを欲し汝の誕辰を呪詛すべければなり』（同上廿三の十八、十九）。

更に新約全書中に見ゆる孝道に關する聖言を擧ぐれば馬竇著福音書第十五章第二節以下に『耶蘇答へて彼等に言ひけるは汝等も何ぞ汝等の傳說によりて神の誡命を犯すや神は言ひたまはく父母を敬へ、父または母を呪ふ者は死に行はるべしと、然るを汝等は曰ふ凡そ父または母にむかひて都て

我が献ぐる者は汝に益あらんと言へば其の父または母を敬はずとも可しと、斯く汝等は己の傳説に籍り神の誡命を廢せり云々』とあり。是れ學士及びファリゼオ徒の僞善者が自己の傳説を重んじて孝養を忘れるを非難し、父母に事ふるに缺たる心を以て徒に聖殿に詣りて供物を献ぐるも益なきことを教へたるものにして取りも直さず我國の道歌に『親のため不孝の身にて我が主たすけたまへと云ふぞはかなき』とあるに同じである。

又路加著福音書第二章の終に『耶蘇乃ち彼等と共に下りてナザレトに至り彼等（聖ヨゼフと聖母マリヤとを指す）に順ひ居れりとある。

是れ耶蘇基督が自ら孝道を實踐して吾人の模範を垂れたまふものである。又約翰著福音書第十九章第二十五節以下を見よ。御主耶蘇基督は其の御死去の後御母聖マリヤを介抱し奉つるべき者なきに至るを深く不憫に思召され十字架上にて今將に慘酷なる最後を遂げんとするに臨み自らの苦痛を忘れて御母の行末を御案じ遊ばされ死後已に代りて之を孝養すべきものを擇ばれ、聖母マリアを見て『婦人よ、汝の子茲にあり』と曰ひ、又最愛の弟子約翰を顧み弟子よ汝の母茲に在りと曰うた。聖傳によれば聖約翰は主の遺言に從ひ其夜より聖マリヤを我家に連れ歸り一生の間己の母として孝行を竭したといふ。

聖保祿の書翰中にも孝道に關する教訓は頗る多い、今其二三を擧ぐればエペソ書第六章二、三の兩節に曰く、

『汝の父母を敬ふべし、約束を加へたる誡は是を始めとす、是れ汝が幸福を得、又地の上に生命の永からんためなり』と。

實に使徒聖ポーロの云へるが如く天主の十誡中約束の附きたるは獨り是れあるのみ、以て基督教の神が如何に孝行を嘉したまふかを知るべき也。

『子たる者よ、汝等すべての事其親に從ふべし、是れ主の悦びたまふ所なり』（コロサイ書三の二十）

『子なる者よ、汝等主にありて兩親に從ふべし、是れ正きことなればなり』（エペソ書六の一）

以上擧ぐる所は耶蘇教の神が如何に孝行を重んじ、耶蘇教の開祖耶蘇基督が如何に孝道を實踐躬行し、耶蘇教の經典「バイブル」が如何に多くの孝道に關する金言を含有するかを示すに於て足りるであらう。更に耶蘇教の忠君愛國に於ては如何

加藤博士曰く『支那で墨子は兼愛說を稱へた、兼愛說は廣く一般の人間を愛するので、父母兄弟朋友の區別がない、然し儒教よりいへば緣が近い者は遠い者よりは最も愛すべきものだと駁するから、墨子は儒教とは大に異なつて居る、耶蘇教は墨子の兼愛說を十倍も二十倍も爲たものであらうと思ふ云々』と。是れ大なる誤解である、耶蘇教の博愛なるものは決して、墨子の兼愛說の如く無差別なるものではない第一に天地萬物の造者主宰にてまします天主卽ち眞神を愛し、次に其代理者なる君父を愛し、次に兄弟親戚朋友仇敵より禽獸草木に至るといふやうに其愛を及ぼすに整然たる順序を有するのである、豈に其父母と他人とを同一視し、自國と外國とを混同するものであらうや。イエズス曰く「汝の心を盡し、魂を盡し、力を盡し、精神を盡して、汝の神なる主を愛し、又汝の近き者を己の如く愛すべし」（ルカ十の廿七）と。

試に福音書を披いて主耶蘇基督の言行を細察せよ、如何に彼が其本國を第一に愛せるかを發見するであらう、彼が十二使徒を招き、之に惡魔を逐ひ疾病を癒す權を授けて、之を傳教に派遣せんとするや、先づ之に命じて曰く『異邦人の道に往く勿れまたサマリヤ人の邑々に入る勿れ、寧ろイスラエルの家の迷失へる羊に往け』と（馬竇傳十の五六）これすなはち基督が先づ第一に其本國イスラエルを救ひ、次に世界萬國に及ぼすべきを命じ給うたのである。又カナンの一婦人が基督の名聲を聞き、來りて其女の病を癒さんことを願うた時、主基督は『我は惟イスラエルの家の迷へる羊へ遣されし而已』と答へたまうた。以て基督は他國民よりも一層深く其本國同胞を憫みたまうたことが見られる。又主基督が頑迷暴戾なる同胞に向ひてなし給へる最後の說教は其言辭が如何に悲愴慷慨であつたかを見よ、主基督は其剛腹頑迷なる猶太國民に向ひ熱血を注ぐが如き慨切悲嘆の言をなして曰く『嗚呼イエルザレムよ。イエルザレムよ、豫言者を殺して且つ汝へ遣はされたる者を石にて擊殺す者よ、牝鷄の其雛を翼の下に集むる如く我は汝の赤子を集めんと欲せしこと幾何ぞや、然るに汝は肯ぜざりき視よ汝等の家は墟址となりて汝等に遺らん』と（馬竇傳廿三三の卅七、卅八）卽ち、基督は其同胞なる猶太人を切愛するの餘り、母鷄が雛を其兩翼の下に覆ひて害を防ぎ守る如く、彼等に及ぶべき罪罰を遁れしめんとて切に教を宣べて歸順を勸めたれども、彼等は之を聽かなかつたから、其祖國の亡滅を豫言して哀哭せられたのである。斯くても猶ほ加藤博士は基督に愛國心無しと言ふを得る乎。

加藤博士又曰く『耶蘇教に愛國といふことあり、君の者は君に返せ、帝の物は帝に返せといふこ

とがあると云つて我が說を駁擊せし人あり然しこれ位では隨分なさけない次第である。かゝる愛國心で滿足するは隨分心細い次第である。余が說を駁するは之を根據とするに過ぎずこれでは餘り薄弱な駁擊である云々』と。加藤博士は耶蘇教にて忠君愛國を敎ふるは僅に此一句を根據とするに過ぎずと信ぜられるが如くなれども是れ亦大なる誤謬である。基督は『セザルの物はセザルに歸せよ』（馬竇傳廿二の廿一）と宣ひて國家に對し、政府に對するの義務を敎へられたのみならず、猶ほ彼は前に示せる如く其實踐躬行を以て愛國の活模範となり給うた。

吾人請ふ、更に一歩を進めて加藤博士が忠君愛國の敎を含まずと稱する「バイブル」に就て、其が如何に多くの忠君愛國の金言を含蓄するかを示さん。

「凡ての人上位に在りて權を持てる者に服從すべし、蓋し權は皆天主より出でざる者あらず、凡そ有る所の權は皆な天主の立て給ふ所なればなり、是の故に權に抗逆する者は天主の定めに抗逆する者なり、抗逆者は自ら天主の罰を招く者なり、司權者は善人には恐るべきものにあらず、唯惡人のみ之を畏るべきなり。故に汝權を畏れざるを願はゞ只善業を行へ、さらば彼より褒賞を受けん、彼は汝を益せんための天主の臣僕なり、されど若し惡業を爲さば恐れよ、彼は故なくして劍を有せず、天主の臣僕たれば惡業を働く者を誅罰せんがためなり故に之に從順なるべし、又其從順は唯刑罰を恐れて然るのみならず、天主に定められたる者なることを知り、衷心より深く從順なるべし、是故に汝等租稅を納むるなり、何となれば彼等は天主の使臣にして此事に司る者なればなり、汝等人に對し盡すべき凡ての義務を盡すべし、即ち租稅を受くべき者には租稅を納め、畏敬すべき者は之を畏敬すべし」（羅馬書十三の一より八）

世の無神說に惑溺する學者は忠君愛國の理由をば單に社會構成の必要にのみ歸し、動もすれば至尊を以て一種の機關の如く見做す者あれども、吾人天主敎徒は啻に社會の秩序を維持し、吾人の安寧幸福を保全する爲に君主司權者の必要なるが故に之を尊敬すると云斗りでない。猶ほ其上に聖書の金言と聖會の敎訓とに從ひ、主權者を天主即ち眞神の代理者として之を畏敬するのである、されば天主敎徒は無神論者よりも一層多くの且つ有力なる尊王忠君の理由を有するのである。

蓋し忠君愛國の理由をば單に社會構成の必要にのみ歸する者は、將來若し君主なくして、更に完全なる社會を構成し得る方法を發見したらんには、最早忠君尊王の必要を見ざるに至るであらう、天主公敎の主權神出說に依れば聖書と聖會との權威の滅びざる限りは、忠君愛國の大義を消滅する

ことは出來ないのである。

聖會の教父として尊信せらるゝテルチュリアン曰く「帝王なる者は公共の幸福安寧を保全せんが爲め、天主の選定したまへる貴臣にして其位天主に次ぎ、萬民の上に在り、故に萬民皆之を尊敬し之に服從せざるべからず、而して之を尊敬するは天主を尊敬するに同くして天國の賞を得るに足り、之に反して之を輕賤するは天主を輕賤するに當り地獄の罰を招くべし」と。是れ前に引用せる羅馬書第十三章一節以下に見ゆる聖ポーロの言と同じく、又舊約聖書箴言第八章十五及び十六節にある「我に依りて（天主自ら云ふ）王者は政事をなし、君主たる者は正しき法律を定め、我に依りて君主たる者は命令を下し、有司等は世を治む」といふ天主の金言と同樣である、天主教會の文學者の「オーソリチー」たる聖トマス博士も其の大著「神學大全」の中に「人は帝王に對して忠義、尊敬、服從、の三つの義務を盡さざるべからず」と言はれた、其他公教會の凡ての神學者及び哲學者は孰れも皆な帝王及び司權者を神の代理者として尊敬すべく、又之に抗くは啻に人間に抗くに非ずして、有ゆる權威の本源なる神に抗くに同じく、來世の賞罰にまでも影響すべきことを教ふることは一致して居る。

玆に誤解してはならぬ事は、カトリック教徒が君主を天主の代理として之に忠事することは、其君主がカトリック教徒なると否とに依りて毫末も變化なきことである。使徒時代の羅馬皇帝ネロは有名なる暴君にしてキリスト教を迫害し、使徒聖ペトロ聖パウロを始め無數のカトリック教徒を虐殺したけれども、聖ペトロも聖パウロも羅馬の信者に向つて主權者に服從し、之を畏敬し、之がために祈らねばならぬと教へたのである。

請ふ吾人をして猶ほ進んで新約聖書中に見ゆる忠君愛國に關する主要なる聖言を擧げしめよ。

「汝等天主の爲に凡て人の立る所の者に服從せよ、或は上位に在る帝王、或は惡を行ふ者を罰し善を行ふ者を賞するために、帝王より遣はされたる諸官吏に服從すべし」（聖彼得前書二の十三、十四）

「すべての人を尊敬し、同胞兄弟を愛し、天主を畏れ、王者を尊ぶべし」（同上二の十七）

「我れ特に勸む、すべての人の爲に願ひ、祈り、求め、感謝せよ、帝王及びすべて權威を有する者の爲には別けて之を爲すべし、是れ我等敬虔と善德とを以て、靜に安かに日を送らんが爲なり、是は善の事なり、我等の救主なる神の御心に叶ふことなり」（提摩太前書二の一、二、三）

「なんぢ彼等をして執政と權威ある者とに服し且つ順ひ凡の善事を行ふ備をなすことを勸むべし」（提多書三の二）

「凡そ軛の下に在る僕婢たる者は完全なる愛敬を其主君に竭すべし是れ天主の聖名と聖教とのそしられざらんがためなり」（提摩太前書六の一）

「僕婢たる者よ、凡てのこと肉體に附ける主君に從ふべし、只人を悅ばす者の如く、主君の見居る時のみ、善く働くことなく忠誠の心を以て見ざる所なき天主を畏れて從へ、故に汝等何事をなすにも人に仕ふると思はず、天主に事ふると思ひて心より之を行ふべし、さらば汝等天主より天國の大なる褒賞を受くべし」（哥羅西書三の廿二以下）

「僕婦たる者は、基督に從ふが如く、畏敬、謹愼、誠意、誠心を以て、肉體につける主人に服從すべし、人を悅ばする者の如く只眼前の事を務むること勿れ、基督の僕婢の如く心より天主の旨を行ふべし、人に事ふるが如くせず、天主に仕ふるが如く快よく事ふべし、そは僕婢なる者にもあれ自主自由なる者にもあれ、各々行ふ所の善によりて天主より褒賞を受けんことを汝等知ればなり」（以弗所書六の五以下）

「僕婢にはれの主君己に從ひ、何事を爲すにも之を悅ばせんことを務め、之に言ひ逆らはず、物を盜み取らず、萬事に就て完全なる忠義を盡すべきことを勸むべし、こは何事をなすにも我等の救主なる天主の教を飾ることをせんためなり」（提多書二の九以下）

「僕婢たる者よ、畏敬を以て主君に服從すべし、唯善良なる者、柔和なる者にのみならず、氣六かしく情なき者にも順ふべし、人若し受くべからざる苦みを受け、天主を敬ひて之を忍ばゞ譽むべきこなり、汝等若し過失をなし打たれて之を忍ぶとも何の譽むべきことならんや、されど若し善を爲し苦められて之を忍はゞ天主に譽れを得べし」（彼等前書二の十八以下）

匹夫より起りて佛國皇帝の位に昇り、歐洲の天地を震撼しめたる稀世の英傑ナポレオン第一世、一日其嗣子の教育を敬虔篤信の聞え高き宮廷のある一貴婦人に托して曰く「我れ此兒を御身に托す、願くば此兒をして善き基督信者たらしめよ」と。時に侍臣中之を聞きて窃に嘲笑するものありければナポレオン之に謂て曰く「然り、余は實に我兒の良基督教徒たるを望む、何となれば余は良基督教徒にあらざれば又良帝國王或は良國民たる能はざるを信ずればなり」と。

亞米利加合衆國を獨立せしめたるジョージ・ワシントン曰く「凡そ國家を福祉に導く所以の諸々

の性情習慣ありと雖も、宗教（基督教を指す）と道德學との二者を以て欠くべからざるの要點とす、此二者卽ち人生福祉の柱石を顚覆して以て愛國心ありとする者は妄なり、又宗教に原かざる道德學を以て人民の職分を勤勵し得べしと云ふことは余は道理と經驗とに由て斷じて之を信ぜず」と。

以上論證する所に據り、耶蘇教の經典『バイブル』が孝道及び忠君愛國に關する數多の教訓を含蓄して、毫も我國體に背反せざるのみならず其の教ふる完全有力なる孝道は我邦固有の孝道を完成すべく、天主教の權利主義、主權神出說は我が國粹を保守して、其精華なる忠君愛國の美德を益々發達せしむべきものなる事を知り得られよう。眞正なる基督教は忠君愛國の觀念を滅却するのに非ずして、却つて之を誘拔し養成するものなることは獨りナポレオンとワシントンとの公言する所に非ずして泰西歷史の明かに證言する所である、佛國に於て忠君愛國の模範と仰がるゝバヤールの傳を見よ、ジャンダークの傳を研究せよ、其崇高なる忠君愛國の精神が如何に公教の熱烈なる信仰と密接の關係あるかを發見するであろう、吾人は反覆極言す、天主公教は我國體に危害を加ふるに非ずして、却て之を完全無缺なるものとするの教であると。

カトリック教徒の忠君愛國の實例

以上述ぶる所の教義に基き、カトリック信者は宗教界に於ける精神的元首として羅馬教皇に服從すると同時に國家の主權者を神の代表者として尊敬し、其主權に服從し、神に奉仕する心を以て、其君主其國家に忠事するのである。故に古來萬國歷史上に於て最も有名なる忠君愛國者はカトリック信者である。例へば妙齡の處女でありながら、三軍の上將軍となり祖國の敵を驅逐し國家の獨立を回復し、王室を安全ならしめたる佛國最大の忠君愛國者オルレアンの處女ジャンダークは模範的カトリック信者にして全世界のカトリック信者が聖人として尊敬する者である。佛國大革命の時カトリック教徒は最後まで國王に忠義を竭し、王室と運命を共にしたる事は顯著なる事實である。最近の大戰爭中佛國のフリーメーソン內閣が欺を敵に通じて祖國を賣らんとしたる時、カトリック教徒は其隱謀を發見し、賣國首相カイヨーを獄に投じ愛國者クレマンソーを推して首相となし熱心なるカトリック信者であるフオッシュ元師を聯合軍總司令官に、同じく模範的カトリックなるド・カステルノー將軍を參謀總長に任用して佛國を累卵の危險より救つた。其他大戰中最も功勞ありたる

ベタン元帥、マンジヤン將軍、グーロー將軍の如き何れもカトリック教徒であつた。前回の大戰に於て佛國が滅亡を免れ、最後の勝利を得たるはカトリックの信仰に因ることは明白にして否むべからざる事實である。戰後佛國に於てカトリックの信仰が勃興したのは此事實に原因するのである。

獨逸に於ても大戰中最も能く國家の爲めに忠勤を竭したる者はカトリック教徒であつた。戰爭の半より最後に至るまで獨逸帝國首相であつた伯爵フオン・ヘルトリング氏は有名なるカトリックであつた。講和談判委員として最も功勞ありたるエルツベルゲル氏もカトリックあつた。獨逸をして戰爭の繼續を不可能ならしめたるものは同國の社會主義者であつた。獨逸をして露國と同一の運命に陷ることを免れしめたるものはカトリックである。されば其後獨逸に於てプロテスタント教は全く其勢力を失ひ、カトリック教は國家唯一の救濟者として歡迎せられ內閣を組織する者はカトリック信者か或は其贊成者に限られる有樣であつた。

北米合衆國に於ても大戰中最も忠勤を擢でたるものはカトリックである。大戰中米國は二十歲から三十歲までの壯丁を募集して、約一億萬の應募者を得たが、其中體格檢査で合格したる者は四百萬だけである。其合格者中陸軍に屬する者の約四割と海軍に屬する者の七割以上はカトリックであつた。米國に於けるカトリック教徒の數は全人口の一割八分に過ぎないにも拘はらず、斯く多數の合格者を出したるを見れば、カトリック教が國家の忠良なる臣民を養成するに如何に有力であるかを知ることが出來る。

前の大戰中獨逸潛航艇の跳梁せる大西洋及び地中海を橫斷して米國の大軍を首尾能く佛國に輸送して赫々たる英名を博せる米國海軍總司令官ペンソン提督も熱心なるカトリック信者である。

英國も亦信者の眼には純然たるプロテスタント教國と映ずるらしいが、是も時世後れである。大戰中大陸出征英軍總司令官として偉勳を奏せるヘーグ元帥はフオツシュ元帥と同じく熱心なるカトリックである。

之を要するに前回の世界的大戰爭は宗教の最良なる試金石であつた。此試金石によりて獨逸、英國、米國等に於けるプロテスタント教は其地金を露しカトリック教の眞價は明白に立證せられた。是れ大戰後世界萬國民が國家の最も有力なる救濟者としてカトリック教に向つた所以である。例へば戰敗國の墺太利はカトリック教の司祭であるザイベル氏を首相に推して國家の復興を計つた。新教國なる和蘭に於て、新教信者なる女皇は政變每にカトリックの司祭に內閣組織の大命を下し、カ

トリック信者を中心とする內閣を組織せしめられる。同じく新教國なる瑞西に於いても政府の首腦たる者はカトリック教徒である。土耳其のマホメット教徒すらコンスタンチノープルに羅馬教皇の銅像を建てた。

斯く言はゞ反對者は天草騷動は如何と言ふかも知れぬ。併し天草騷動の原因は島原の領主松倉長門守重次が暴政を行ひ、苛斂誅求を縱にしたるため、人民は塗炭の苦に堪へずして一時に蜂起したるに乘じ、小西及び有馬の遺臣等が亡君の怨を德川氏に報ぜんと欲し、切支丹宗に託して愚民を煽動したる所から起つたものである。故に亂定まるの後、將軍は事實の眞相を調べて大に驚き松倉重次に嚴罰を加へ、奪封の上切腹を命じ、又島原天草の奉行四人を斬首の刑に處した。又島原一揆に加はれる者は有名無實の基督信者で、教理に精通せざるのみならず、當時彼等を指導すべき宣教師が無かつた爲め、暴徒の仲間入りをしてカトリック教の精神に背反する所業に陷づたのである。何となれば是より先き豐臣氏始めて切支丹禁制の令を布き、德川氏之に繼いで益々嚴重に宣教師を探索して或は之を殺し、或は本國に追ひ還して、當時一人も殘らなかつたのみならず、熱心なる信者も皆捕縛せられて刑戮せられた故である。

教會至上主義

大正十一年我が政府は羅馬教皇廳に外交使節を常置するの必要を認め、大正十二年の豫算中に其費用を計上し議會の協贊を求めたが、佛教徒の猛烈なる反對運動起り、それが功を奏して終に該費目は豫算より削除せらるゝの運命に立至つた。其時佛教徒の反對意見の中でカトリック教に對する難點は多端に亘つて居るけれども、之を要略すれば次の二點に歸する

一、カトリック教の主義は教會至上主義であつて羅馬法王の權力の下に世界を統一する基督教國家を建設せんとするものなるが故に根本的に我國體と相容れず、一般的に近代の國家組織と衝突する。

二、カトリック教の教義は頑冥的獨斷的で異說を迫害するが故に羅馬教會は文化特に學問及び思想の敵である。

故に吾人の駁論亦た二章に分つて初に教會至上主義に就いて論じ次にカトリック教と文化とについて論ずることとする。

一　教會至上主義

反對論者が教會至上主義と稱するものは、彼等がカトリック攻擊の最も有力なる武器と信ずる所であるから、特別に此點を明かにする必要がある。

高柳博士の駁論

法學博士高柳賢三氏は佛教徒の說を駁して次の如く述べられた。曰く『次に國內の問題として、卽ち一面宗教上の問題として使節派遣は教會至上主義を公認することになり國體と相容れず、國民思想を惡化するに至るとの說もあるやうであるが之は事實を知らざる者の言と謂はねばならぬ。凡そ西洋歷史を繙くものは新舊兩教の確執の意外に長く且つ激しかつた事を看過し得まい。舊教にプロテスト（反抗）する新教の立場からは舊教の缺點のみ宣傳された。カトリックは精神界と俗界との兩方面に於ける主權を獨占せんとするものであると云ふはプロテスタントの見方である……カトリック教は道德に嚴格であつて、從順はその綱領である、却て治め易しと謂はなければならぬ。

カトリック教が日本に輸入せられて、かなりの月日を經てゐる。若し國民思想を惡化すべきものならば、布教の自由の認めらるゝ事久しき今日、既にその徵候の現はれぬ筈がない。

次に國法學上の問題として、教會至上主義と國家至上主義との爭ひは近代の歷史に於て著しい事實である。國家の主權のみを絕對的に認めるものと、或問題については國家以外の或者にも主權を持たしむべしと論ずるものとの二派がある。卽ちイムペリウム、イン、インペリオ（imperium in imperio）（國家內の國家）の問題として、かなり面白い問題であるが、有名なるフイツギスの『現代國家に於ける教會』ラスキの『主權論』、リチヤード・ロバーツの『英帝國に於ける教會』等に於てはインペリウム、イン、インペリオは成立ち得ると云ふ立場であるが、此論は寧ろ次第に勢力を得つゝある」と。

カトリツク教會の世界統一の理想

反對者は皆カトリック教會は教會を以て神の意志を代表する唯一至高のものと認め、法王の權力の下に世界を統一する基督教國家を建設せんとするものであるとし、從つて近代の國家組織と矛盾

し特に我が國體と相容れぬといふ。果して正當の批判であるか否か。

カトリック教の信仰によれば教會の目的は一切の人間の永遠の救靈である。基督は教會に、教理を說き祕蹟（sacramenta）を行ひ信徒を治むるの權を附與し給うたといふのである。カトリック教の救は神道などの樣に一國の人民に限るものではなく全世界の民に關する事であり、一時代に局限するものではなく世界開闢より世の終に至るまでの總べての人類の救を目的するのである。從つて聖書マテオ聖福音書第二十八章の第十九節第二十節に、キリストの聖言として『汝等往きて萬民に敎へよ、然して我は世の終まで日々汝等と偕に居るなり』とあるが如く、敎會は萬國萬代に亘つて眞理を宣ぶる團體である。蓋し基督敎（眞正の基督敎卽ちカトリック敎をいふ）は唯一絕對の眞理であつて、其他に救靈の道はない。故に敎會の理想は世界人類が一人も殘らず敎會の權に服し以て永遠の救を得んこと是である。敎會は世界を統一せんとする者であるといふのは此の意味に於て眞實である。

吾人は今敎會の權と言つた。此の權とは如何なる意義を有するか。第一に敎理を說くの權である。玆に敎理と稱するは信仰問題のみならず道德問題をも含んで居る。佛敎は道德を輕く視て俗諦とし方便道とするが故に之を王法と名づけ佛法と對立せしめ宗敎と道德とを別範疇のものとするがカトリック敎は道德を重視し、信仰のみあつても道德を完全に行はなければ救靈を得ないとする故である。第二には祕蹟を行ふの權である。祕蹟とは外的記號により內的聖寵を我等に與ふる基督の定め給うた式である。第三に信徒を治むるの權である。卽ち規則を制定して之を守らしめ、守らざる者を罰する事と忠言警告等を以て惡を避けしめ善に導く事とである。

元來人には靈魂と肉體とがあるから、人は同時に精神界と物質界とに屬する。精神界の最高主權者は羅馬敎皇にして、物質界の最高主權者は國家の主權者である。此の二つの主權者は孰れも神の代理者である。同時に此兩元首に從ふことは不可能ではない。何となれば此兩主權者の行ふ權力の領域は全く別々である故である。基督が「セザルの物はセザルに歸し、神の物は神に歸せ」（マテオ廿二の廿一）と宣うたのも卽ち現世に關する事は現世的主權者に服從し靈性に關する事は精神界の主權者に服從せよと云ふ意味である。

くかの如く敎會は精神上の事について神の代理者であり國家は此世の事について神の代理者である。敎會の精神上の權とは上の三權であつて約說すれば信仰と道德との事に關して規定し人に之を

守らしむるにある。信仰と道德との事に關する限り教會は神の意志を代表する唯一至高のものであり、其の範圍に關する限り教會の首長卽ち教皇は地上に於ける最高の權威である。信仰と道德に關する限り教皇は世界の指導者であつて世界は其の精神的の權の下に服すべきものである。而して社會の福利を增し禍害を避くるが爲に强力を用ゐる範圍に於て國家の權力がある。而して上述の理由によつて事の信仰道德に關する問題に於ては國家は教會の規定に遵行すべきものである。カトリック主義を以て教會至上主義なりとせば其の教會至上主義とは斯の如きものである。決して政治的權力を主張するものではない。

故にカトリック教は羅馬教皇の權力の下に世界を統一する國家を建設せんとするものであるといふならば、其の權力は純然たる靈的の權力であり、其の世界統一は純然たる靈的統一であり、其の世界國家は比喩的の語であつて精神的國家卽ち精神的支配を指すに外ならぬ。決して有形的國土でなく政治的支配ではない。

然らば所謂教會至上主義は果して近代の國家組織と衝突するであらうか。近代多數の國法學者は國家至上主義を取り國家主權の第一の性質として其一切の活動に於て、自己以外に何等自己を制限するもののないことを要件として居り、國家が道德律に遵行すべきことも之を國家の自律に出づるものとし他律的のものでないとする。これらの學者はカトリック教徒でないからして斯樣な見解に出でるのであつてカトリック教徒ならざる爲政者は又同樣の見解を取るのである。しかし斯くの如きは學者爲政者の見解又は政策であつて近代の國家組織其の者ではない。近代の國家組織の特色は其の民主的又は立憲的なる點にある。卽ち國家意志の決定が法律上國民によつて又は國民の參與によつてなさるることにあるのである。然らば所謂教會至上主義と近代政治家の遣口とが衝突する事は多い。しかしそれによつて教會至上主義が近代國家組織と扞格するものでないことは明である。現に今日カトリック教徒が政局に立つてカトリック主義に基いて國政を燮理しつつある國も多い。けれども其等の國と國家至上主義を奉ずる國と國家組織を異にする點を見ず、又カトリック主義の政治家が其の國家組織を危くしたる事實を聞かぬ。否、其の反對であることは吾人が前節に其の實例を示した通りである。

若し夫れ政府當局者が不義非理の事を行ふ時は正義眞理を尊ぶカトリック教徒は敢然立つて之れに抗爭する。かくの如き節義の士こそ眞に國家の臣忠である。儒教に於ても孝經に孔子の言を載せ

て曰く、

昔者天子有ニ爭臣七人一、雖ニ無道一不レ失ニ天下一、諸侯有ニ爭臣五人一、雖ニ無道一不レ失ニ其國一、大夫有ニ爭臣三人一、雖ニ無道一不レ失ニ其家一、士有ニ爭友一、則身不レ離ニ於令名一、父有ニ爭子一、則不レ陷ニ於不義一、故當ニ不義一則子不レ可ニ以不レ爭ニ於父一、臣不レ可ニ以不レ爭ニ於君一

とある。反對者が基督教は不孝を教へるものであると誣ふる所の

我が來れるは人を其父より、女を其母より、嫁を其姑より分つべきなり。人の族は其仇となるべし。我よりも父若くは母を愛する人は我に應はず、我よりも子若くは女を愛する人は我に應はず。

なる基督の語も畢竟此の意義である。政府のなすことと云へば善でも惡でも唯々諾々として盲從する便佞善柔の民臣のみならば治め易くはあるだらうが、斯の如くにして其國を失はずんば幸である。

カトリック教と我が國體

次に世人がカトリック教に對する、最大難點として擧ぐる所のもので今度も亦反對論據の一となつたものにカトリック教は我が國體と相容れぬといふのがある。これ果して如何。

我が國體とは何ぞや。法律學者は曰く國體とは統治權の總攬者が誰であるかの點である。我が國體とは萬世一系の天皇が統治權の總攬者たるにあるといふ。然るにカトリックの教理に於て陽にも陰にも萬世一系の天皇が統治權の總攬者であつてはならないと教へてゐる點があるか。勿論カトリックは萬國萬代に通ずるものであるから國體政體に於いて一を是とし一を非とするものではない。古代の國家に宜しく近代の國家に宜しい。帝國たると王國たると共和國たるとを問ふものでない。何れの國家に於ても國民は其の正當なる主權者及び政府に忠誠を盡すべしと教へて居る。故にカトリック教は如何なる國體にも矛盾しない。特に我が國體にのみ適合するとはいはないが、我が國體にのみ適合しないといふのは全く根據のない說である。

次に國民道德學者は我が國に於ては天皇又は皇祖が道德律の制定者であり少くとも實說者であるとし之を國體としてカトリック教が神を以て道德律の制定者とし教會を以て道德律の宣說者とする點を以て國體に反するといふ。乍併道德律の制定者は人間ではなくして神である（儒教でも道の本原は天であるといふ）。人は神の制定に係る道德律を宣說するのである。即ち天皇又は皇祖は道

德律制定者でない。然らば道德律宣說の事は如何といふに道德律を謬りなく宣說する最後の決定者は教會である。しかし道德律は神が人性に銘刻し給うた所のものである故に其の大本は人に明なるものである。故に古來各國の聖賢が之に就いて格言を述べ哲王が之に就いて正法を立てたものは少くない。獨り我が國のみではない。これらの道法は其の古今に通じて謬らず中外に施して悖らざる範圍に於ては即ち神の法であつて吾人は神の法として之によるべきである。即ち賢王は道德律の宣說者であり得る（絕對的宣說者といはれないが）。故に此の點に於てカトリック教が我が國體と矛盾するとはいはれない。

國民道德學者亦曰く、我が國體は君臣一家たる點にある。所謂義は君臣たりと雖も情は父子に同じであるといふ。これ君臣間の情誼を以て國體とするのである。然るにカトリック教は君主は臣民を愛撫し臣民は君主を敬愛すべきを教へる。故にカトリック教は我が國體に衝突するものではない。加之、眞正の敬愛はカトリック教を俟つて初めて明となりカトリック教によつて初めて完全に實行することを得るのである。

二　カトリック教と文化

カトリック教と不寛容

反對者はカトリック教義は固陋であり頑冥であり獨斷である。カトリックは異說を壓迫すると。果して然るか。

カトリック教の考へ方は論理的である。Aは非Aにあらずとする。故にカトリック教に於ては眞理と誤謬とは絕對的に反對である。又AはBなるか非Bなるかであるとする。故にある言說は誤謬であると共に眞理であることは出來ない。神ありとすることが眞理ならば神なしと云ふは誤謬である。基督が神であるといふことが眞理ならば基督は神でないといふことは誤謬である。神は有りといふも無しといふも共に眞であるとは言はれず、基督は神であるといふも神でないといふも共に眞であるとは言はれない。

もとより宇宙は複雜であり、人世は多端であつて、吾人は宇宙人世各般の事象に關し正確なる智

識を得ることは容易ではない。同一事物に關する觀察實驗も時、所、人の異るに從ひ、其の方法の異るに從つて必ずしも同一の結果を得ない。又同一の事象であつても之を說明せんとするに當り各人の考へ方が異る爲めに異つた說明を得ることも少くない。故に吾人は同一事象の叙述說明に於て各種の異說異論に逢著し、其の何れを眞とし何れを誤とするを得ない場合が日常生活に於ても科學に於ても多いのである。

觀察實驗に於ては同一の事象に就いても其の結果は多種多樣であるを常とし特に數量的にさうである。勿論特に一の算式に基き之を計算し得る場合には純理上から割り出した數値が一定である爲めに、誤差ある多數の實驗數値が皆一の計算數値に統一される。しかし斯樣な場合は少く、大抵は多數の觀察實驗から歸結して蓋然的に一定の結果を得るに過ぎない。

同一の事象を說明するに當り說明の基本たる論理の法則は萬人に同一である。而して同一の事象が與へられて居るとすれば同一の結果に到達しなければならぬ。然るに異つた結果に到達するといふのは何故であるかといふに事象の說明に當つては必ず假定を要するものであつて、事象が複雜であればある程その假定も數多くなり又複雜である。然るに假定は多少とも想像を含むものであるから同一事象の說明に際し異種の假定が成立ち得る。かくして說明は益々多種多樣となる。先に各人の考へ方が異るといつたのはこの意義である。然るに假定は心理的に見れば事實でないから吾人は或る假定は眞らしいか眞らしからずとか言ひ得るのみであつて之を眞であるとか誤であるとか言ひ得ない。（眞ならば假定でなくして事實であり誤ならば假定として成立ち得ない）。從つて吾人は事象の說明に對しては眞らしいとか眞らしからずとかの外は言ひ得ない。此の意義に於て、すべての科學的眞理は蓋然的である。故に吾人は科學上では諸種の異說を許さねばならぬ。勿論科學的智識の對象と雖も客觀的に於は一定であるが吾人の智識に於て卽ち主觀的に於て多種多樣であり得るのである。

然るに宗教的眞理は之と異る。宗教的眞理は神が人に啓示した所のものである宗教（眞正の）とは人と神との關係を規律するものである。而も神は無限であり人は有限である。人は自己の心力を以て無限なる神に關して全く正しく知ることは出來ない。全く正しく神を知ることが出來なければ正當に神に事へる事が出來ず、眞正の宗教は成り立たない。然るに神は無限の愛であるから人が神を正しく知り正しく之に事ふることを望み給ふ。然るに人の方からは無力であるから神の方から人

に對して神自らを啓示しなければならぬ。かくして眞正の宗教は成立ち人と神との關係は正しく規律せられ人は正しく神に事へ得る。此の天啓は神から來るものであつて、人の觀察實驗によるものではない、人の思索によるものではない。天啓は人の智識ではなく、神の智慧である。

人或は天啓と雖も之を傳へる者は人であるから宗教的眞理と雖も全く實際の如く知ることは不可能であるといふかも知れぬ。然れども天啓の仲介者たる人（豫言者）は神の智慧を正しく受くる樣に其の心が神に照されて居るのである。特に基督に依つて傳へられた天啓は基督が人たると共に神たるによつて全然實際に符合して居る。又天啓の意義を解釋するものは神から不可謬の保證を得て居る教會である。故に吾人に傳へらるゝ天啓卽ち宗教的眞理は絶對的眞理である。客觀的には勿論主觀的にも一定であつて多種多樣ではあり得ない。これ宗教的眞理の本原を神に置く當然の結果である。而して神なるものは人が勝手に創造したものではない。カトリック哲學に證明するが如く必然的存在である。

故に科學上では異說を許し得るが宗教上には異說を許し得ない。故にカトリック教會は異端を禁遏する。斷じて許さない。人はカトリック教の異說を寬容せざるを誹つて獨斷である、壓迫である、頑冥、固陋であるといふが、これ評者の無理である。宗教といふものが科學上の假定と同じく假定であるならばカトリック教は異說を許し得たであらう。寬容であり得たであらう。乍併宗教は假定ではない。若し自ら假定たるに甘んずる宗教があるならば、眞正の意味では宗教でない。

佛教の考へ方はカトリック教と異り、Aは非Aである、AはBにもあらず非Bにもあらずといふ。非有非空、亦有亦空などの言が一例である。これ佛教が宗教的眞理の認識に對する吾人の無力を認め而も天啓を認めず、天啓に接せざるの然らしむる所である。既に天啓なし、其の宗教的眞理は主觀的にも蓋然的眞理であるに止まり、絶對性がない。故に異說を包容し得るのである。然らばカトリック教の不寬容は其の絶對的眞理たる當然の結果であつて、これカトリック教の譽である。

科學上の眞理は相對的蓋然的であるが故に時代に應じて進歩する。其の進歩とは別の事實が現れて前に眞と思はれたことが後に誤となり或は更に眞らしき說明が現はれた爲め眞らしからざる說明が棄てられる事である。然るにカトリック教の眞理は絶對的必然的であるが故に時代に應じて進歩することはない（教會が新信條を作るは既に啓示された眞理に基き其の解釋を一定するものである。信條は增加發展するけれども變更はない。又神學は宗教にあらずして科學である。カトリック

教の宗教學である。故に神學の學說は絕對的のものでなく、種々の變遷がある)。これが反對者の眼に固陋頑冥と映ずる所である。若しカトリック教が假說であり科學であるならば時代と共に推移せぬのは固陋頑冥であるであらう。しかしカトリック教は天啓的宗教であつて完全であるから推移がないのである。これ亦カトリックの譽である。

文化の母なるカトリツク教

文化とは人類の精神的產物の社會生活に於ける價値的現はれであると定義するを得よう。哲學、藝術、科學等是である。カトリック教は前節に述べた如き不寬容の宗教であるが、果して其の不寬容は文化の敵であるか。

宗教は一切の精神生活の基礎であるが故に一切の文化は宗教を基調とする。故に多神教の國及び時代の文化は一神教の國又は時代の文化と異り、反カトリックの社會及び時代の文化はカトリックの社會及び時代の文化と異る。カトリック文化の特色は其の精神主義なる點である。神本主義なる點である。靈を尊び肉を賤む點である。人間的思想感情を神的思想情緒に服從させる點である。近代は反カトリック卽ち無宗教の時代である。近代文化の特色は其の物質主義なる點である。人本主義なる點である。肉を尊び靈を賤む點である。人間的思想感情の前に神的思想情緒を一蹴し去る點である。斯の如く近代文化はカトリック文化と全然相反する立場にある。

人多くカトリック文化は中世文化であつて全然過去のものであるとする。然れども是れ誤である。中世に於てはカトリック文化は唯一の文化であつた。ルネサンスのヘレニズム復興後、人本主義は時代の主なる思潮となり、宗教に於ては新教となり、哲學に於ては經驗論となり、批判哲學となり、一の極端に於て唯物論となり、他の極端に於て唯心論となつた。藝術に於てはローマン主義となり、自然主義となり、惡魔主義となつた。科學は純經驗を主とし形而上學的思索を排斥した。かくの如く人本主義が近代に於て勢力を得社會の表面に現はれつつある間にカトリック教は花々しからざるも底力ある信仰として其の生命を維持し、スコラ哲學は奇を衒はず、新を競はず、穩健中正なる見解を以て最高原理の攻究に從事し人間の理性を完成せしめ、カトリックの藝術は其の神秘主義を以て人の性情を淨化し、人をして神に向はしめ直に神と交らしめ、天國を憧憬せしめる。かくカトリック文化の勢力は近代に於ては表面に現はれた文化ではないけれども深く人心の奧底を培ひつつあつ

たものである。所謂近代文化は近代社會精神生活の表面の流れである。

カトリック文化は近代に於ては社會精神生活の底の流れであつて表面の流れたる近代文化とは反對の方向に流れて居る。過去のものではなく現在に活ける大なる力である。

吾人は上來近代文化なるものをカトリック文化とは全然反對の立場にあるとして論じた。乍併近代思潮も最近に至つて變化を生じた。哲學が神秘的傾向を取るばかりでなく、科學も形而上學的思索をする樣になつた。そこに『科學と臆說』や『科學の價値』に於て自然科學を基礎に形而上學を論ずるアンリ・ポアンカレーあり眞の宗教と完全なる科學の合一を說く物理學者オリヴァー・ロッヂがある。哲學の方ではオイケン、ベルグソン、ジェームスがある。物質以上の世界を認めた點は三者に共通である。乍併カトリック主義とは相容れない點がある。オイケンは唯物的決定論に對し精神生活を高調した。但し彼は「基督敎は過去のまゝでは現代に意義がない。新しい內容を取り入れなければならない」といふ新敎主義を取り「精神生活」又「內的」なるものゝ明確なる把持を與へない。ベルグソンも一方非物質的の世界を說いたが其の「創造的進化」は變化を以て實相と見、種や屬までも抹殺し眞理の普遍恒久性を忘れた大なる錯誤に陷つて居る。ジェームスのプラグマチズムが、信仰や神秘を肯定するにしても、役に立つもの卽ち善といふ安價なる哲學は、形而上學や敎權へは猶大なる距離がある。藝術も科學萬能の時代には獸性の精細なる描寫が最高の藝術であつたが今や科學だけでは說明がつかない、猶以上の世界があるとの考が漸く擡頭し來つて自然主義から新ローマン主義又神秘主義へ移つた。而して此の新ローマン主義は以前のものと異り、單に理想の影を逐ふ浮いた氣分ではなく、現實の苦を痛感した沈痛な一面がある。乍併この神秘主義は宗敎を人生の事實であつて宇宙の說明ではないとして知的方面を閑却するのは見逃すべからざる弱點である。

之を要するに近代文化は今やカトリック文化の方に向つて動きつつある。勿論猶大なる距離はあるがやがては其の歸すべき所に歸著するであらうことは疑ふべくもない。果然羅馬敎會は學問及び思想の敵ではなかつた。カトリック敎は精神生活の永久不變の指導原理である。紛亂錯綜せる思想に對し其の向ふべき方向を示し取るべき道途を敎へ眞正の文化は之によつて導かれ之によつて促進されるのである。カトリック敎は虛僞の文化の敵である。カトリック敎の不寬容は其の不變性の當然の結果である。若しカトリック敎が順應性に富み從つて寬容的であることが佛敎と同じであるな

らば、生活指導原理としては無力なものとなり了り、虚僞の文化の敵であることがない代りに、眞正の文化の母であることもないであらう。

反對者は羅馬教會が近代科學を迫害したる例證としてコペルニクスの地動說を擧げるが、コペルニクスはポーランド人でカトリック教會の司祭であつた。彼は數多の天文學上の觀察の結果、地球及び諸遊星が不動なる太陽の周圍を回轉するといふ說はプトレマイオスの地球不動論よりも遙に簡單にして事實に合することを發見し、其の宇宙組織論を天體の運行に關する六卷の著書中に詳述し其著書は千五百四十三年ニューレンベルグに於て發行せられ、時の羅馬教皇パウロ第三世に奉獻せられた。

コペルニクスの前にカトリック教會の「カルジナル」ニコラス・ド・クザも地球回轉說を採用し數多の眞面目なる學者を動かし、羅馬教皇エウジエノ第四世も其說に贊成した。

ガリレオが地動說に關して教會の所罰を受けたるは科學の範圍内に安んぜずして聖書解釋の領分に侵入したる爲である。故に其所罰は毫もガリレオの科學的研究を阻害しなかつた。ガリレオは千六百三十三年に有罪の宣告を受けたる後も前と同じ熱心を以て地動說の科學的證據の研究に從事した。即ち彼は千六百三十七年に月の平均動を發見し、其翌年彼の大著『新科學問答』を公にした。是は彼自らが「一生涯の研究の結果を蒐集したるもの」と稱せるものにして、其書中に彼は近世力學の基礎を据ゑた。又彼は其身邊に數多の學者を集めて指導し科學上に著大なる貢獻をなした。晴雨計の發明者として著名なるトリチェリ氏の如きも千六百四十一年以後ガリレオの下に學べる者の一人であつた。ガリレオが死に至るまで熱心なるカトリック信者であつたことは申すまでも無い。

カトリック教會の主權者は科學の研究を妨害しなかつたばかりでなく之を奬勵した。例へば「カルヂナル」レオポルド侯は自然科學就中天文學の研究を目的とせるシメントの專門學校をフロレンス（當時の羅馬教皇領）に創立し、同じく教皇領ボロニア市には數學者として高名なるリッチ及びモンタルバニを始めとして、光線の重屈折を發見せる司祭グルマルヂ等の諸學者輩出し、メザヴッカは同市に於て其の「天體日表」及び「消滅星の研究」を公にした。羅馬に於てカッシニは土星の衛星を發見し、マガロッチは彗星を研究し、司祭ブラチは日蝕に就て顯著なる觀察をなし、カンパニとヂヴキニとは全世界に稱讃せられたる望遠鏡を作り、カッシニは之を用ゐて其の發見をした。

今日の文化の基礎を形成する科學は概ねカトリック教會より出でたるものである。例へば電氣

學上の大發見をなせるガルヴアニ、ヴオルタ、アンペール、クーロンは皆熱心なるカトリック信者である。彼等の名は電氣計算の單位の名稱に採用せられて其功績を永遠に記念せられてある。

最近に死亡せるX線の發見者レントゲンは獨逸國のカトリック都市なるミュンヘン（同市には五十四萬のカトリック信者がある）のカトリックである。

無線電信の發明者ブランリー博士及びマルコーニもカトリックである。

細菌、血清療法、衞生學、殺菌法等の發明者佛國の大科學者パストールが確乎不動のカトリックであつたことは何人も知る所である。巴里のパストール研究所の地下室には禮拜堂が設けられ、其處にパストールの遺骸が保存せられカトリックの聖祭（彌撒）が毎日行はれてゐる。

豌豆を栽培して「メンデリズム」と稱する遺傳の法則を發見したるメンデルは矢張りカトリック教會の司祭又修道者であつた。ダーウヰンの進化說には誤謬多く、今日世界の科學者は「ダーウヰニズム」を信ずる者は漸く少くなりつゝあるに反し「メンデリズム」は益々勢力を得つゝある。反對者はカトリック教會が地動說と進化說とを迫害したと言ふが、地動說は前に述べたる通り、カトリック教會のカルヂナル（教皇の次に位する高位の聖職）が之を創唱し同じくカトリック教會の司祭にして司教參事員なりしコペルニクスによりて大成せられ同じく熱心なるカトリック信者なるガリレオが之を繼紹したるものであるから地動說はカトリック教會の發見であると云つても過言であるまい。

近代に至りて第一に進化說を唱へたる者は矢張カトリックなる大博物學者ラマルクである。ダールキンの唱へた進化說には缺點が多いからカトリックの學者は缺點を攻擊したけれども、進化論中の眞理は却つてカトリックの學者の主唱に係るものである。是は今日「ダールキニズム」が益々衰へて「メンデリズム」が益々盛になるのを見ても判るであらう。

植物學の泰斗瑞典人リンネは篤信なるカトリックであつた。彼が其子に與へたる遺言は「汝罪を犯す勿れ、神は常に汝の側に在ませばなり」であつた。

動物學の開祖佛國人キュヴイエも有名なるカトリックで、常に人に語りて「無神論を主張する者は痴漢に非ざれば罪惡者である」と言つた。

昆蟲學の大家ファーブルは敬虔なるカトリックで「余は神を信ずるばかりでなく、眼前に絕えず神を見て居る」と言つた。

海王星の發見者佛國の大天文學者ルヴェリエは其の天文臺に望遠鏡と十字架とを備へて科學とカトリック教との須臾も相離るべからざるを示したる程のカトリック信者であつた。

物質不生不滅の大原理、空氣の成分たる酸素の發見者である現代化學の開祖佛國人ラヴォアジエは熱心なるカトリックであつた。

諸元素の原子量測定、原子説の創唱者として有名なる佛國の大化學者ヂュマは死に際して「我は終身カトリックとして續いたが、死する時にも善良なるカトリックとして死することが出來るのを喜ぶ」と云つた。

近代哲學の鼻祖と仰がるゝ佛國の大學者デカルトは熱心なるカトリック信者にして羅馬教皇に最も深き尊敬を表し、すべての著作は皆カトリック教會の認可を得て公にした。嘗て書をマルセヌ司祭に寄せて「私は少しでもカトリック教會に背反する言論を吐露しませぬ」と言つた。彼は朝夕の祈禱を怠らず毎日曜には必ずミサ聖祭を拜聽し、規則正しく聖體を拜領し、臨終の時にも立派なカトリックとして此世を去つた。

佛國の大思想家パスカルも有名なるカトリックにして、晩年カトリックの修道院に入りて基督教の大著述に着手したが、惜い哉、稿未だ終らずして夭折した。其遺稿は其死後「感想錄」と題して公にせられた。パスカルは又氣壓計を以て山嶽の高さを測量する法、液體の壓力は上下四面に於て均一なる法則等物理學上最も有益なる發見をなせる大科學者である。

スコラ哲學の大家トマス・アクイナスの如き大思想家は他に其類例を見出すことが出來ぬであらう。世界的名著として有名なる『基督の模倣』の著者トマス・ア・ケンピス、『神曲』の作者ダンテの如き皆カトリック信者である。

現代に於ても第一流の思想家及び操觚者はカトリックである。北歐の大文豪ヨルゲンセン、英國文壇の雄將チエスタートン、佛の文豪ポール・ブールジェ、ルネ・バザン、前東京駐劄佛國大使にして大詩人たるポール・クローデルの如き皆熱心なるカトリックである。

斯かる大科學者大思想家を輩出するカトリック教會を呼んで科學の敵、思想の自由の敵と稱するは誣妄も亦甚しと謂はざるを得ぬ。

以上縷述した所に依てカトリック教は決して我國體と矛盾するものでなく却て最もよく我國體に合するものであり又決して文化と背馳するものでなく却て文化を促進するものであるといふことが

明になつたであらう。希くは先人の偏見に虜はるることなくカトリックの眞理のある所を十分研究せられんことを。

日本精神總動員に就て

今回の支那事變は我日本開國以來未曾有の大事變である。日清、日露の大戰役よりも遙かに多くの重要性を含むものである。支那に於ける我帝國の皇軍は連戰連勝北京、南京を占據し、徐州を陷落させ漢口も近く占領するに相違ないが、只これだけを見て樂觀して安心したり、氣を緩めたりしてなはらぬ。

支那の背後には蘇聯邦といふ强大國が控えてゐて皇軍の疲弊に乘ぜんとして日夜其機會を待つてゐるのであるから少しも油斷が出來ないのである。幸ひ天佑によつて蘇聯は野蠻極まる肅清の嵐が吹き出し、赤軍の最も有力なる元帥、大將等が相繼いで銃殺されたので、其の出鼻を挫かれたがスターリンは民衆の信望を維ぎ留めるため、日本と戰端を開き人心を其方に轉向させんとする下心があるから何時無謀の暴擧を敢てするかも知れないのである。

斯う云ふ次第であるから、全日本國民の精神的、物質的の總力を戰爭目的貫徹に集中して首尾能く時艱を克服し、東亞永遠の平和を確立するのは我等現代國民全體に課せられたる重大なる責任である。現代の戰爭は國のすべての力を擧げての戰である。鐵砲や大砲に依る作戰行動と共に深刻な經濟戰、外交戰、思想戰が行はれて最後の勝負がつくのである。

併し何と言つても戰爭の目的を達成するため最も肝要なるものは日本精神である。人間は思想によつて動くものである。故に何事をなすにも先づその思想を健全强壯にしなければならぬ。

日本精神は澤山の美點長所を含んでゐる。就中重要なるものは忠君、愛國、敬神、崇祖である。特に最も根本的なるものは敬神の思想である。故に今日は專ら之に就て述べるつもりである。

古來我が日本は神國と呼ばれてゐる。北畠親房卿の『神皇正統記』の冒頭に『大日本は神國なり』とある。

文祿二年六月豐臣秀吉が明使に與へた書狀には『大日本は神國なり、神は卽ち天帝、天帝は卽ち神なり、全く差ひ無し』（續差林國實記）とあり。日本書紀第九卷神功皇后紀には『新羅王――醒

めて曰く、吾れ聞く、東に神國有り日本と謂ふ』とある。第八十八代御嵯峨天皇御製に『榊とり眞澄の鏡かけしより神の國なる我國ぞかし』とある。第九十代龜山天皇御製に『ゆくすゑもさぞな榮えむ誓あれば神の國なる我國ぞかし』とある。

然るに我國には八百萬の種々の神樣がある。國學の大家本居宣長先生の歌にも『神と云へば、皆等しくや思ふらむ鳥なるもあり、虫なるもあり』『いやしけど雷、木靈、狐虎、龍のたぐひも神のかたはし』『釋迦、孔子も、神にしあれば、其の道も廣けき神の道の枝道』とある。併し其の神々の中にて一番尊い神は天地萬物の造者主宰にてまします造化三神即ち古事記の冒頭に記されてある天の御中主の神高御產靈の神、神產靈の神といふ三位一體の神である。

此三神が造物主であることは本居、平田の如き最も權威ある學者の一致してゐる定說である。古事記の序文の始には「三神造化の首と作り」とあり、日本書紀の顯宗天皇紀三年二月の處には日月兩神が阿閉臣事代に著りて「我祖高御產靈神は預く天地を鎔造し功あり云々」と御託があつた。平田篤胤翁は之を解して「鎔造は本無かりし天地を作り出し給へることである」と古史傳に解釋してゐる。

本居宣長翁は『玉鉾百首』に「もろ〳〵の、成り出づるもとに、神產巢日、高御產巢日の、神のむすびぞ」と詠じ又「さて世間に有りとあることは、此の天地を始めて萬ツの物も事業も悉に皆此二柱の產靈の大御神の產靈に資て成り出るものなり」「あらゆる神たちをみな此神の御兒なりと云はむも遠はず、神も人もみな此神の產靈より成出づればなり」と書いてゐる。

又平田篤胤先生は其名著「古道大意」の中に造化三神も人も皆お造りになり、あらゆる神等即ち日の神も月の神も、又其親神なるイザナギ、イザナミの兩神も皆この御神の御子であるからあらゆる神々の中にて最尊最貴の至上神であるから第一に此神を尊敬すべきことを述べ、今より九百年許前一條天皇の長德年中、藤原公任が撰と傳へられてゐる「拾遺集」には「君見ればむすぶの神ぞ怨めしき、つれなき人を何つくりけん」と云ふ歌があるから、其頃までは世人は猶造化の神即ちむすびの神を明かに認めてゐたのであるが、創造神、主宰神を否定する佛敎の影響に因りて益々此神を忘れるやうになつたことを平田翁は深く慨嘆して「佛意の生さかしらにのみ惑ひはて、此の神の御德を忘る」と云つてゐる。

又翁は產靈神は耶蘇敎の天主、儒敎の天帝、印度の太梵天王と同じく造物主であると云つて我國

に行はれる眞正の神道は此造物主の教であることを其著『俗神道大意』の冒頭に次の通り述べてゐる。

「まづ眞の神道と申すは、古來の大意」と申したる如く、この天地を御造り遊ばしたる天つ神タカミムスビ、カムミムスビの神の始めまして、イザナギ、イザナミの神の御受繼あそばして、世に有りとある事物の本を御始めなされた。又その事物を悉に持分けしろしめす神々をお生みなされて其功德は天照大御神に御傳へあそばしさて皇御孫ニニギの命が御天降り遊ばさるゝ時天つ御祖ムスビの御神は天照大御神より皇御孫命の御代〳〵が天の下を知ろし召す御政のやうを御傳へあそばし、扨御代〳〵の天皇はその御依しのまに〳〵己命の御さかしらを御加へあそばさず天地と共に御世しろしめす事ぢやが、此の道をさして神道と申したることでござる」と。

斯樣に我等日本人の最も尊敬する神は造物主で、天照大御神は御親ら此天神を御祭り遊ばされて我々日本臣民に敬神の御模範を垂れさせたまうた事は我國の古典に明記する所である。されば我々カトリック教徒が信仰する神は決して外國の神ではなく、我等日本人の開國以來信仰したる神である。又眞の神道は造物主の教であるから當然カトリック教と同じものであらねばならぬのである。

然るに今回の日支事變は我等日本人の敵であるばかりでなく全世界カトリック教徒の不倶戴天の大敵である共產主義に對する聖戰である。共產主義はカール・マルクスの唯物史觀に基くもので、純然たる唯物論である。隨つて一切の宗教を迷信として排斥し、「宗教は民衆の阿片である」とか「宗教は資本主義ブルジョアが搾取する道具である。」などと言つて宗教に反對し、神に反抗して戰ふものである。實に古今未曾有の大異端である。

古來殆んど無數の異端が起つたが、未だ曾て神を否認して、公然之と戰ふものは無かつた。共產主義は單に創造神、主宰神を否認するばかりでなく、一切の超自然、一切の靈の存在を否定し、人間の靈魂の存在も其の不滅をも認めない。卽ち神國日本とカトリック教との不倶戴天の大敵である。今や我が日本は此神敵を擊滅して世界の平和を確立すべき大使命を天より受けた。

我等日本人カトリックたる者は奮つて此聖戰に參加し、他人に百倍する勇氣と犧牲とを以て、いくさの庭に立つも立たぬも、各自の本分を完全に果し、此大使命を首尾能く果し、帝國臣民としては天皇陛下の御宸襟を安じ奉り、カトリック教徒としては教皇聖下の思召に副ひ奉り、世界に誇るべき神國日本と萬世一系の皇室とを堅く守り、東洋諸國を赤禍の不幸より救ひ、進んで全世界の平和と文明とに貢獻しなければならぬ。

又共産主義と云ふは無形なる危險思想であるから大砲や爆彈で根本的に擊滅し得るものではない。此惡思想を根絶する最も有力なる武器は共の正反對の善思想卽ちカトリック教であることを忘れてはならぬ。

Cum. app. eccl,

昭和十五年五月廿五日印刷
昭和十五年五月三十日發行

定價金三十五錢
送料金三錢

著者　山口鹿三　東京市杉並區八成町九〇
印刷兼發行者　丸廻里　東京市杉並區八成町九〇
印刷所　東京育英工藝學校印刷部

發行所　東京市杉並區八成町九〇　ドン・ボスコ社
振替東京六五五五六番
電話荻窪二九一四番

407
6

カトリック講話集

購讀料金
一ケ年一圓

皆様に、ドン・ボスコ社發行のカトリック講話集をお奬めします。カトリック信者は之によつて自分の教理の理解を深め、又、未信者をカトリックに導くための布教用としても大へん役に立つ、平易に書かれた小冊子です。一ケ年を一期間とし、一期間に十二輯（一輯約五十頁）づゝ發行されます。購讀の御申込はいつからでもかまひません。一ケ年分壹圓です。

發行所　東京市杉並區八成町九〇
ドン・ボスコ社
振替東京六五五五六番

終